

**【山形県小国町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県小国町
担当課名	教育振興課
電話番号	0238-62-2141

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	6, 7 1 8 人	部活動数	1 2 部活
公立中学校数	2 校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	1 6 7 人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

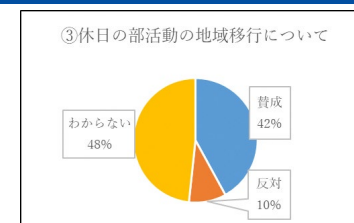
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和4年度から実証事業に取り組み、今年度は2年目を迎えた。対象となる部活動も後述のとおり令和4年度の3部活（野球、陸上、バレーボール）に2つの部活（ソフトテニス、卓球）が加わり、5つの部活で実証事業に取り組んだ。

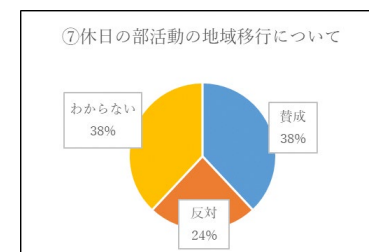
実証事業2年目の取り組みの中でみえてきたことは、指導者の確保（理解を得られること）が円滑な事業実施につながることである。地域の受け手である指導者が確保できなければ、財源が整備されたとしても実証事業に取り組むことは困難なことがわかった。指導者を確保するには、行政や受皿組織からの継続的かつ丁寧な説明が必要だと感じた。

保護者、指導者、教員を対象としたアンケート結果からは、「休日の部活動の地域移行」について、教員からは全員が賛成の意向を示したものの、保護者、指導者からは賛成が保護者42%、指導者38%に留まる結果となった。また、反対の意見も保護者10%、指導者24%あり、わからないと回答された方も保護者48%、指導者38%にのぼった。このことから、現状では学校と保護者・指導者の地域移行についての意識に乖離が生じている。今後は取り組みを継続し、保護者、指導者への制度の周知を図ってきたい。

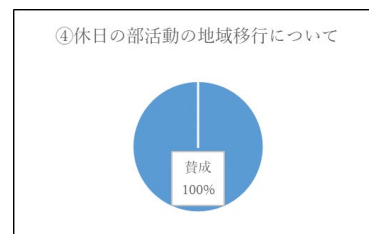
地域移行への賛否（保護者）



地域移行への賛否（指導者）



地域移行への賛否（教員）

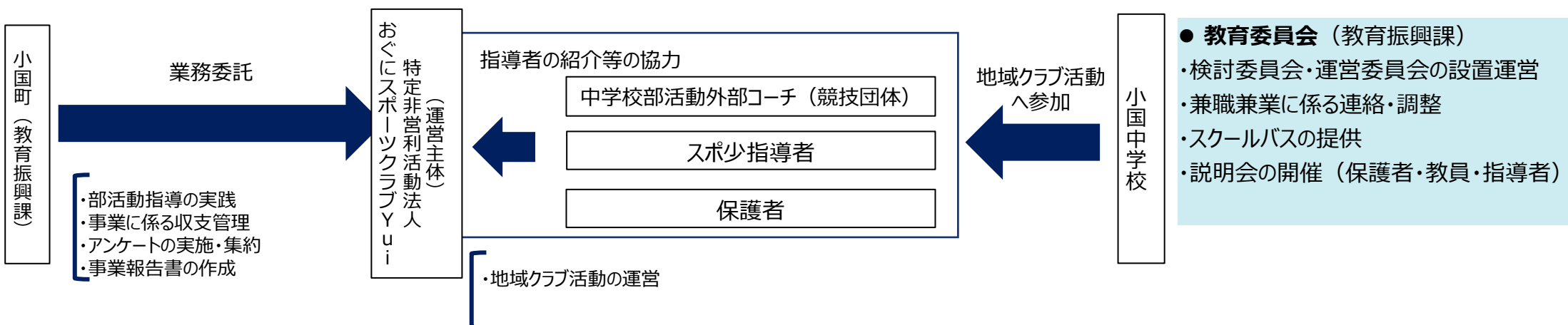


2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

▼行政組織内での役割分担



年間の事業スケジュール

- ・令和5年6月9日 小国町スポーツ文化活動の地域移行検討委員会
- ・令和5年6月15日 小国中学校スポーツ文化活動運営委員会
- ・令和5年7月20日 小国中学校スポーツ文化活動の地域移行に係る説明会（保護者、外部コーチ、関係競技団体の長）
- ・令和5年7月26日 小国中学校スポーツ文化活動の地域移行に係る説明会（保護者、外部コーチ、関係競技団体の長）
- ・令和5年7月31日 小国中学校スポーツ文化活動の地域移行に係る説明会（小国中教職員対象）
- ・令和5年10月6日 運動部活動指導業務委託契約締結（特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYui）
休日の運動部活動の段階的な地域移行実践研究開始
指導者説明会、実践活動、アンケート等実施
- ・令和6年1月31日 運動部活動指導業務委託契約終了
- ・令和6年3月1日 小国中学校スポーツ文化活動運営委員会
- ・令和6年3月6日 小国町スポーツ文化活動の地域移行検討委員会

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

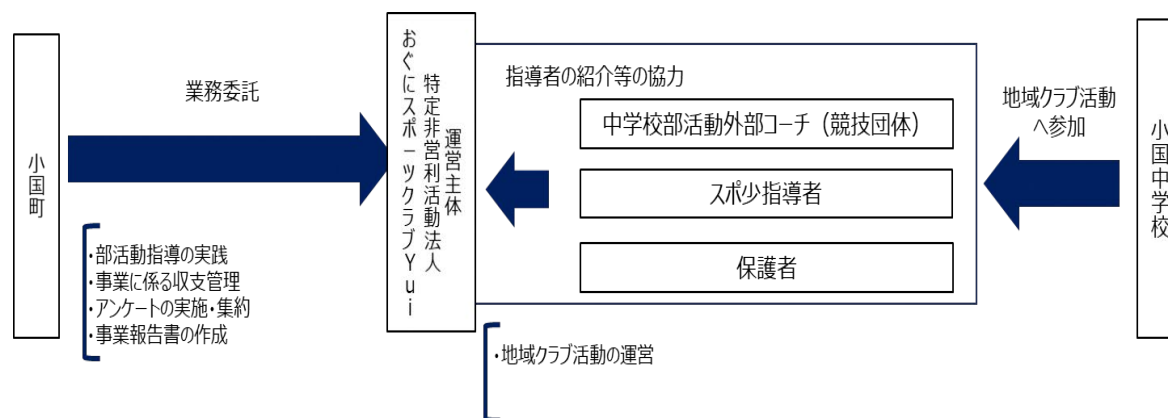
拠点校数	小国中学校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球、陸上、バレーボール、ソフトテニス、卓球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	小国中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	5 部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球、陸上、バレーボール、ソフトテニス、卓球
運営主体名	特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYui
運営類型	地域スポーツ団体運営型（総合型地域スポーツクラブ運営型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	野球：月 4 回程度 陸上：月 4 回程度 バレー：月 3 回程度 ソフトテニス：月 3 回程度 卓球：月 4 回程度
指導者の主な属性	中学校外部コーチ、スポ少指導者、保護者
活動場所	小国町民総合体育館、多目的屋内運動場 小国中学校
主な移動手段	スクールバス
1 人あたりの参加会費等（年額）	無料（町費負担）
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・顧問と指導者間の連絡調整役として、コーディネーターを配置した。
- ・検討委員会及び運営委員会を設置し、事業の方向性や具体的な運営方法について協議を行った。

取組の成果

- ・受託者にコーディネーターを配置し、学校・指導者・行政間の情報共有を図りながら事業を実施できた。
- ・教育委員会内に「スポーツ文化活動の地域移行検討委員会」を設置し、中長期的なスポーツ文化活動改革の方向性の意思決定を行い事業を実施できた。
- ・小国中学校内に「スポーツ文化活動運営委員会」を設置し、実務担当者により運営方法を協議し、事業を実施できた。

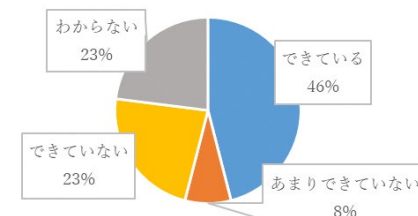


運営委員会の様子

特に工夫した事項

各競技の活動に際し、学校顧問との連絡調整をはかるため、小国中学校で外部コーチを委嘱されている方をチーフ指導者とし、月次の活動計画の作成など中心的役割を担ってもらった。

⑤顧問・Yuiと情報共有できているか



今後の課題と対応方針

参加した指導者34人を対象としたアンケートの結果からは、顧問と受託者と情報共有について、46%が情報共有できていると回答があったが、一方で約3割が情報共有できていないことがわかった。地域指導者は平日勤務されている方がほとんどであるため、学校（顧問）⇔地域指導者の情報共有を図るため、コーディネーターが両者の橋渡し役を担えるような体制を整備したい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

複数指導体制を確保するため、競技団体指導者はもとより、保護者も指導者として登録し、量の確保を図った。

取組の成果

実証活動を実施する上で、活動中の安全確保の観点から、複数での指導をお願いし、活動を行った。仕事や家庭の都合で、競技団体やスポ少指導者が複数確保できない場合を想定し、保護者も指導者として活動に参加してもらった。



保護者も指導者として参加
(ソフトテニス)

特に工夫した事項

保護者を指導者にするにあたっては、競技経験者をチーフ指導者から推薦してもらうなどし、指導者数を確保した。

今後の課題と対応方針

小国町は中山間地域に属する約人口6,700人の町であるため、都市部と比較し、指導者の確保が質・量ともに難しい現状にある。現在の指導者に活動を継続してもらうとともに、競技の愛好者にも声をかけ、幅広い年代から協力していただける指導者を確保したい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

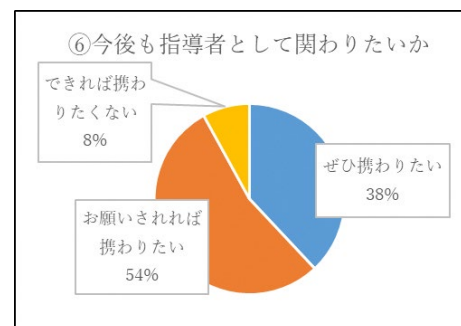
▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者については、各競技団体、スポーツ少年団に協力を仰ぎ、指導者確保を行った。

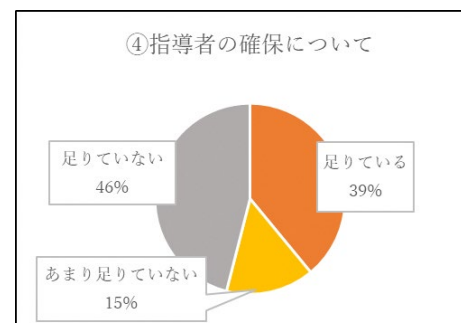
取組の成果

活動中の安全を確保するために、複数（2人以上）で指導にあたるように制度設計を行った。参加した指導者34人を対象としたアンケートの結果、「今後も指導者として携わりたいか」の項目において、9割以上の方から今後も指導に携わりたいとの回答を得た。このことから、関係団体との連携を強化したため、指導者1人あたりの負担軽減にもつながったと考えられる。



特に工夫した事項

各競技団体からの指導者及び各スポーツ少年団からの指導者では、人員を確保することが困難なため、競技経験のある保護者などを指導者として登録し、活動を実施した。しかしながら、参加した指導者34人を対象としたアンケートの結果からは、「指導者の確保について」の項目について、全体の6割程度が足りていないとの回答を得た。



今後の課題と対応方針

今後は、現体制のほかに地域住民や企業の理解を促し、仕事を持つ指導者がクラブ活動に携わりやすい環境づくりに取り組むこととしたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

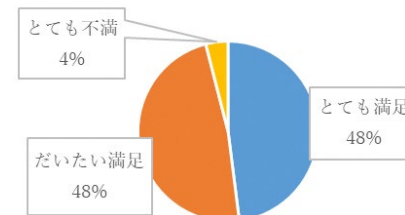
取組事項

5つの部活動を移行し、取り組みを広めた。
令和4年度：野球、陸上、バレーボール
↓
令和5年度：野球、陸上、バレーボール、ソフトテニス、卓球

取組の成果

小国中学校には8つの運動部（野球、陸上、バレーボール、ソフトテニス、卓球、サッカー、柔道、剣道）があり、活動を開始するにあたり、全部活動の外部コーチに実証への協力を依頼した。そのうち、取組事項記載の5つの部活動の外部コーチより了承を得て、事業に取り組んだ。参加した生徒58名を対象としたアンケートの結果、96%の生徒が「とても満足」、「だいたい満足」との回答を得た。

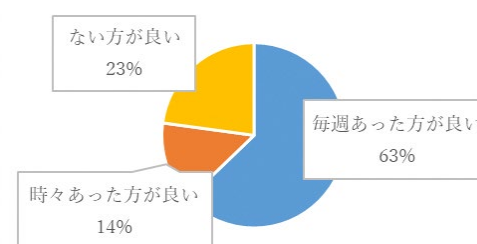
③クラブ活動の満足度



特に工夫した事項

指導者には、負担軽減のため、毎週の活動ではなく、概ね月2回以上の活動機会を提供してもらうようお願いし、活動を実施した。結果として、平均で3回/月活動を行うことができた。参加した生徒58名を対象としたアンケートの結果、「毎週あったほうが良い」と回答した生徒の割合が63%であった。実施結果とアンケート結果が概ね一致しており、需要に応じた実施体制をとることができたと考えられる。

①休日の部活動の希望



今後の課題と対応方針

令和6年度以降については、残りの3つの部活動の地域移行に向け、外部コーチを中心に協力依頼を継続し、多くの部活動が地域移行できるようにしたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

野球において他校との合同練習に取り組むことができた。

取組の成果

野球競技において、新人戦で合同チームを組む学校と合同で練習することができた。



合同練習の様子（野球）

特に工夫した事項

地域指導者と相手校指導者と交流を図り、合同で練習する機会を設けた。



合同練習の様子（野球）

今後の課題と対応方針

山形県南西部に位置し、新潟県の県境に位置する小国町は、東京23区が入る737km²を有するため、今回練習した他校とも往復80kmを要する。このため、移動手段の確保が必要となってくる。今年度も町のスクールバスで対応したが、今後も引き続き移動手段を確保することとしたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

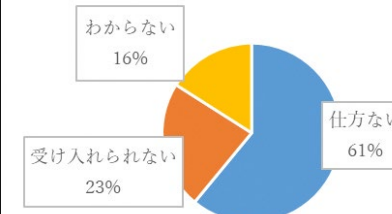
取組事項

困窮世帯への支援、受益者負担の課題等について、継続して検討を行った。

取組の成果

保護者 58 名を対象としたアンケートの結果、参加費用の負担については、61%が「仕方ない」との回答を得た。

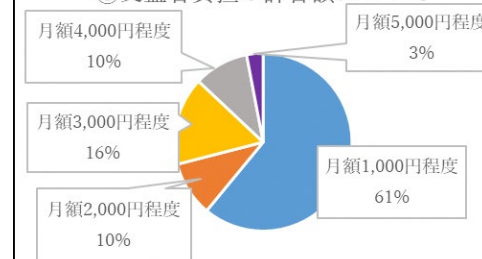
⑤活動費用の受益者負担について



特に工夫した事項

保護者 58 名を対象としたアンケートの結果、参加費用の許容額について、61%が「月額 1,000 円程度が妥当」との回答を得た。

⑥受益者負担の許容額について



今後の課題と対応方針

アンケートの結果から、半数以上の保護者が参加費用の負担について理解を得られることが判明した。一方で、2割程度の保護者が「受け入れられない」との認識を示しており、丁寧な説明と重ね理解をえられるようにしたい。なお、持続可能な制度とするため、適正な参加費用負担を設定するとともに、困窮世帯向けの支援方法について、検討していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設、学校備品については、クラブ活動においても使用できるよう調整を図り、管理方法等についても取り組みを進めながら検討した。

取組の成果

学校施設の使用にあたっては、事前に学校と教育委員会、受託者と協議を行い、活動の際の入り口（社会教育玄関）や鍵の管理方法（受託者にて管理する）などルールを定めて運用を行った。



学校体育館での活用の様子（陸上）

特に工夫した事項

校舎の鍵については、受託者にて管理を行った。

※流れ

使用者（地域指導者）が受託者事務所へ借りに行く→借用簿に必要事項記入
→校舎解錠→活動開始・終了→使用者校舎施錠確認→校舎施錠→使用者が受託者事務所へ鍵返却



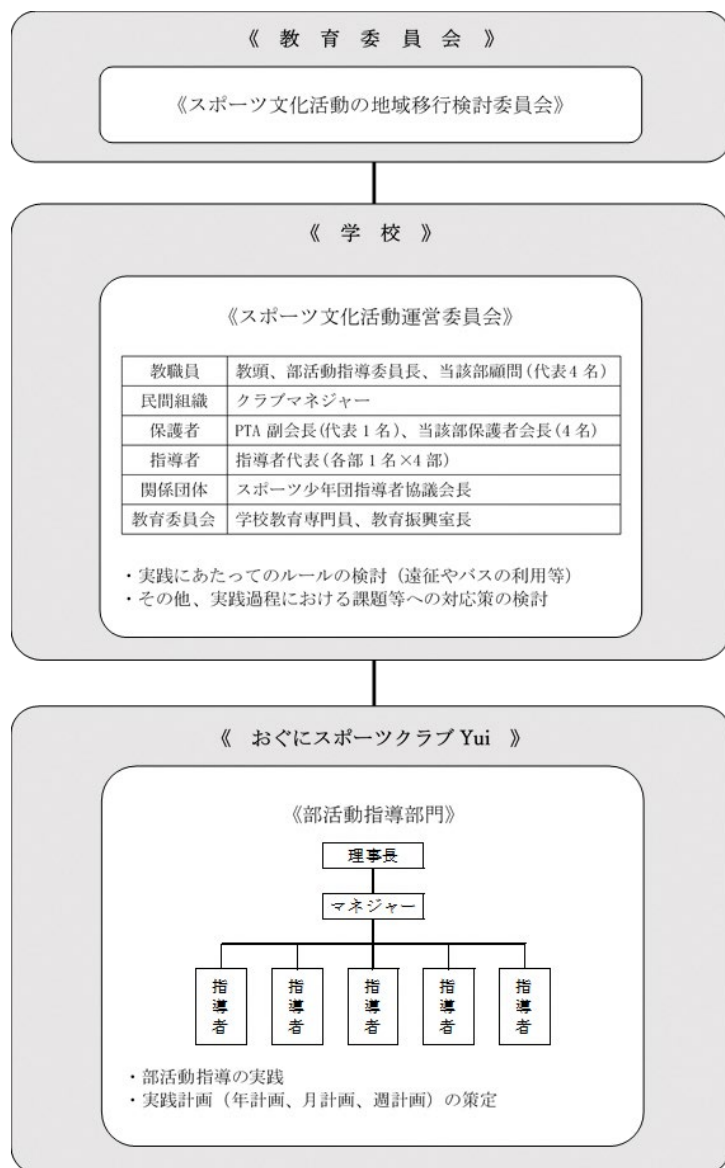
鍵と借用簿（受託者事務所）

今後の課題と対応方針

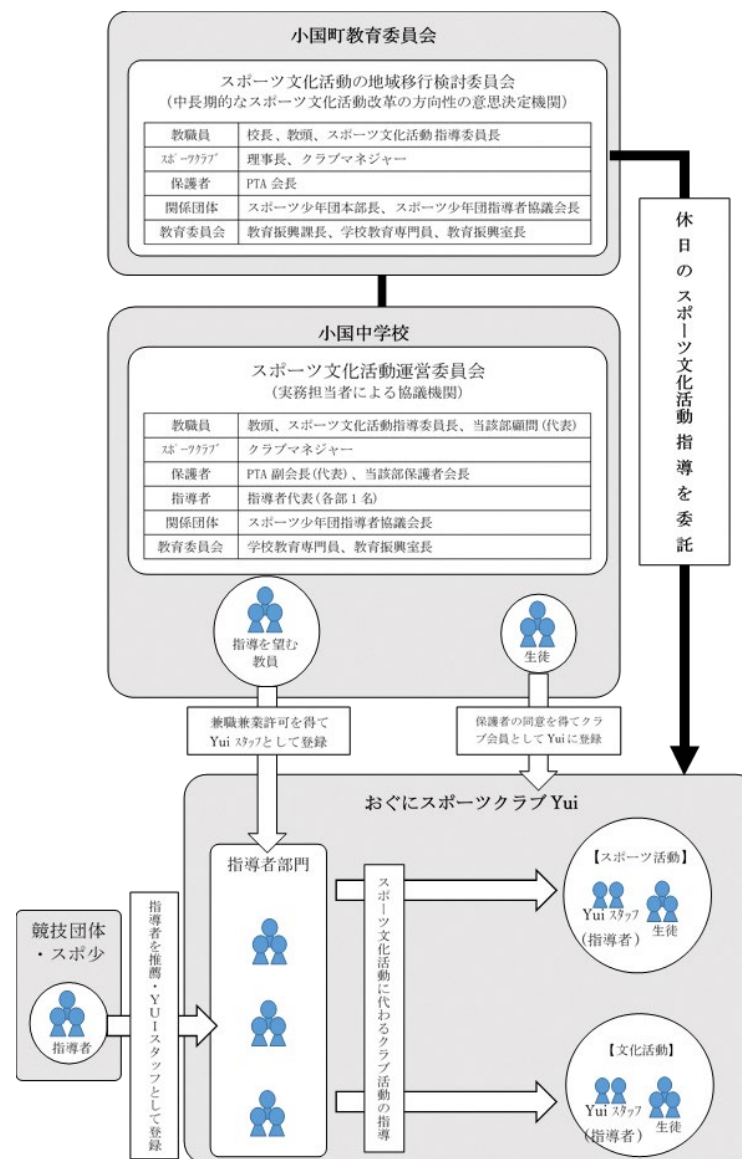
今回は冬期間の使用が主だったため検証期間が短かったが、次年度以降は年間を通した活動の中で課題を検証し、学校施設の活用を図りたい。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



【実施体制図 1】



【実施体制図 2】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【活動の様子（ソフトテニス）】



【活動の様子（卓球）】



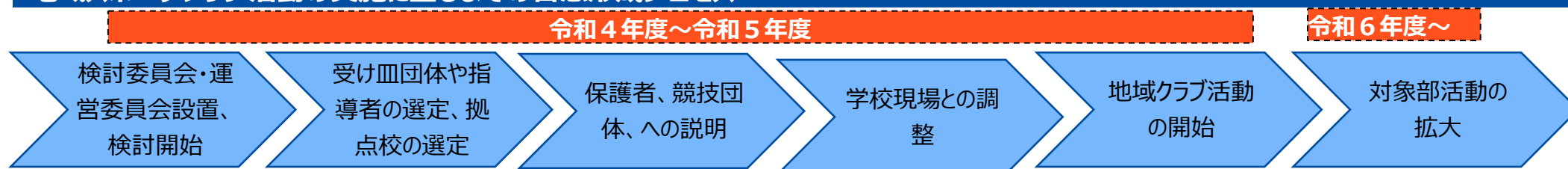
【活動の様子（バレーボール）】



【活動の様子（陸上）】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



検討委員会・運営委員会の設置

●構成

※検討委員会（教委内）

学校、スポーツクラブ、保護者、関係団体（スポ少）、教育委員会

※運営委員会（学校内）

教職員、スポーツクラブ、指導者、関係団体（スポ少）、教育委員会

●経過

令和4年度より設置

●実施内容、工夫した点 等

教育委員会内に「スポーツ文化活動の地域移行検討委員会」を設置し、中長期的なスポーツ文化活動改革の方向性的意思決定を行い事業を実施。

・小国中学校内に「スポーツ文化活動運営委員会」を設置し、実務担当者により運営方法を協議し、事業を実施。

学校現場との調整

●ステークホルダー

学校（教頭）、受託者（クラブマネージャー）、教育委員会担当者

●経過

学校施設を使用にあたっての鍵の管理方法などの協議を行った。

●実施内容、工夫した点 等

活動の際の出入口の指定

鍵の管理方法の詳細を決定し、事業を開始

使用者（地域指導者）が受託者事務所へ借りに行く→借用簿に必要事項記入→校舎解錠→活動開始・終了→使用者校舎施錠確認→校舎施錠→使用者が受託者事務所へ鍵返却

対象部活動の拡大

●ステークホルダー

中学校部活外部コーチ、教育委員会、保護者、競技団体の長、教職員

●経過

事業を実施するにあたり、制度の周知を図るため、説明会を開催した。

●実施にあたって生じた課題

認知不足、指導者の事情により実証事業に対して理解を得られなかったケースもあった。

●実施内容、工夫した点 等

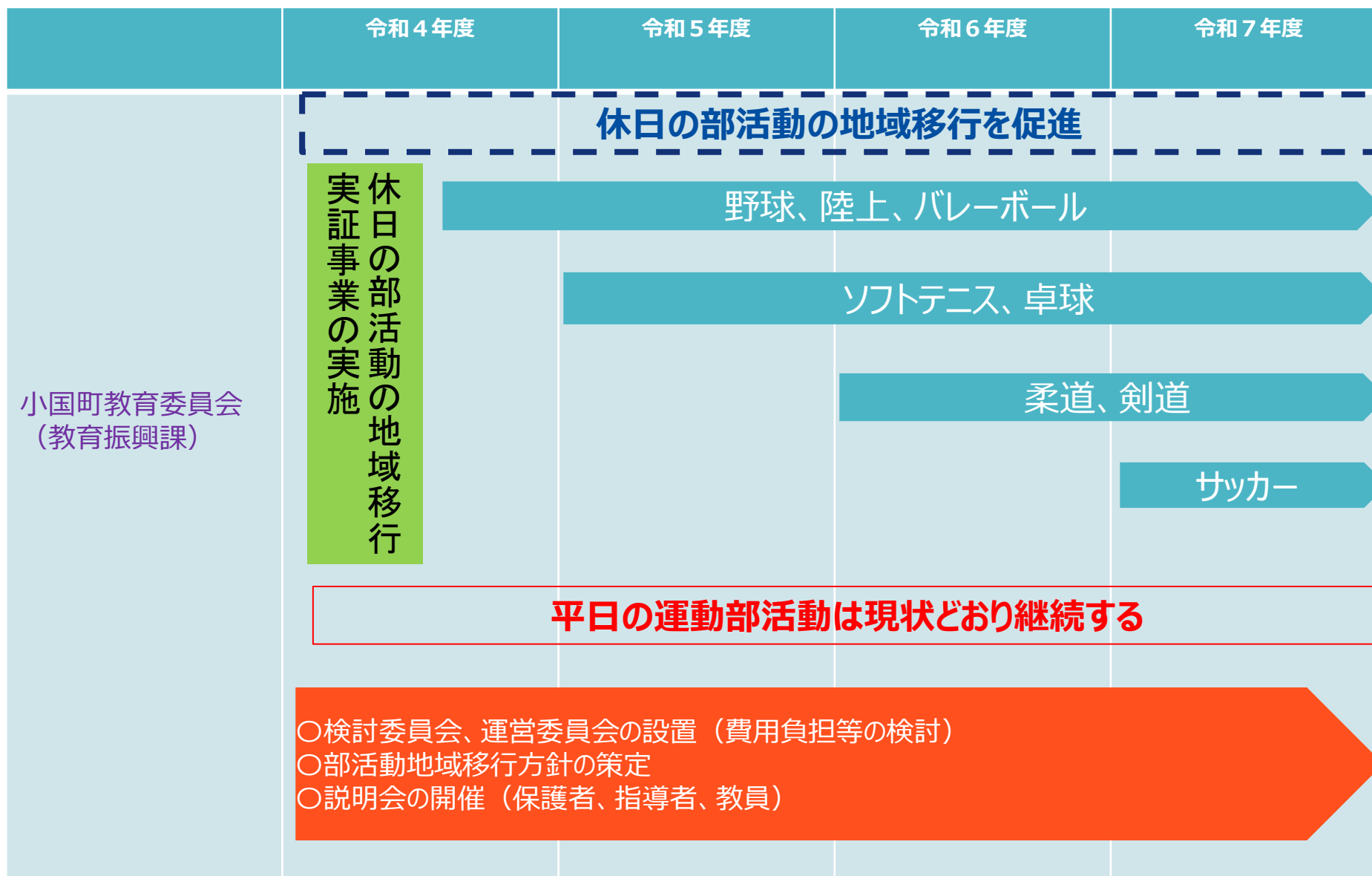
保護者、指導者、教職員とも全員を対象に説明会を開催した。

その結果、R4：3部活動→R5：5部活動と対象部活動を拡大することができた。次年度以降についても周知する機会を設け、対象部活動の拡大につなげる。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

小国町教育委員会 休日の部活動の地域連携・地域移行スケジュール(案)



**【山形県白鷹町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県白鷹町
担当課名	教育委員会 学校教育係
電話番号	0238-85-6144

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	12,482人	部活動数	15部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	357人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

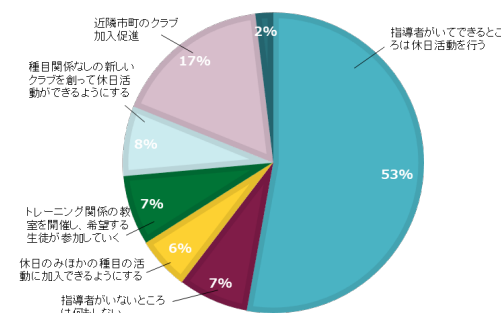
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和5年度現在の町内スポーツ少年団数は17団あり、内中学校の部活動と連携して活動を行っている種目が、剣道、柔道、サッカーの3種目となっている。この3つの種目の休日の活動は、ほぼスポーツ少年団としての活動となっている。その他の種目における中学生の休日の部活動の現状は、部活動顧問が休日の活動計画を立て、指導を行っている。他市町にあるクラブに加入している生徒もあり、部活動に入らずクラブの活動に参加している生徒(サッカー)や部活動をしなからクラブ加入をしてどちらも行っている生徒もいる(バスケットボール、陸上)。

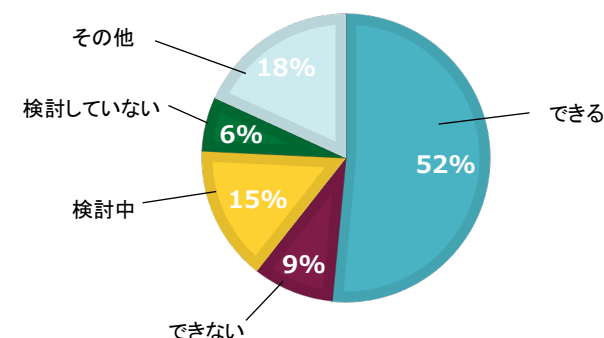
スポーツ少年団の指導者(代表)と部活動外部指導者を対象に、「休日の指導について」アンケート調査を行った。その結果から、スポーツ少年団を中心にして地域移行について進めていく考えの指導者が多いことが分かった。また、休日の活動を進めるにあたって、指導者に関する課題(指導者数、頻度、部活動顧問との連携、指導者資格、大会時の役員、指導者謝金)や活動に関する課題(移動(輸送)、スクールバス利用の可否や調整、活動場所、用具、試合等の調整)、運営に関する課題(組織や役割、予算、活動の管理、保険加入、指導者謝金、事務内容、中体連や近隣クラブ等の連携、希望する活動がない生徒の活動場所の検討)など多くの課題が明らかとなった。

また、現小学4～6年生に「中学校入学後の休日の過ごし方についての意識調査」を行い、その結果や実態等と照らし合わせながら、中学生の今後の休日の活動についての方向性を検討し、提案する準備を進めている。

休日の望ましい活動の仕方



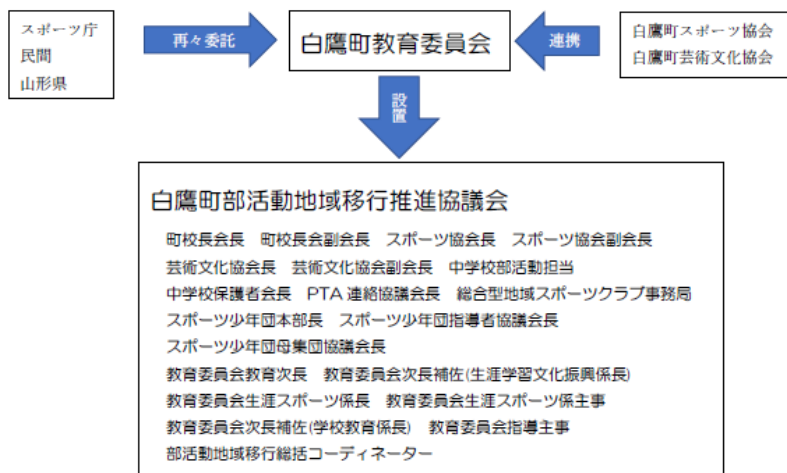
休日に中学生の活動の指導ができるか



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）（案）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育係）

総括コーディネーターを設置し、町スポーツ団体およびスポーツ少年団との連絡調整を行う。また、アンケート等を実施し、現状の把握や町民へのアナウンスを行う。

● 首長部局

白鷹町は、首長部局との役割分担はなし。

年間の事業スケジュール

- 9月末 第1回白鷹町地域部活動推進協議会
部活動地域移行総括コーディネーターの配置
- 10月 指導者アンケート調査準備
スポーツ庁、県、近隣市町の情報収集と整理
- 11月～12月 指導者アンケート調査配付と回収、集約
小学4年から6年生対象のアンケート調査作成
- 1月 小学生アンケート調査配信と集約
アンケート調査からの課題の整理と今後の方向性の検討
- 2月 第2回白鷹町地域部活動推進協議会

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

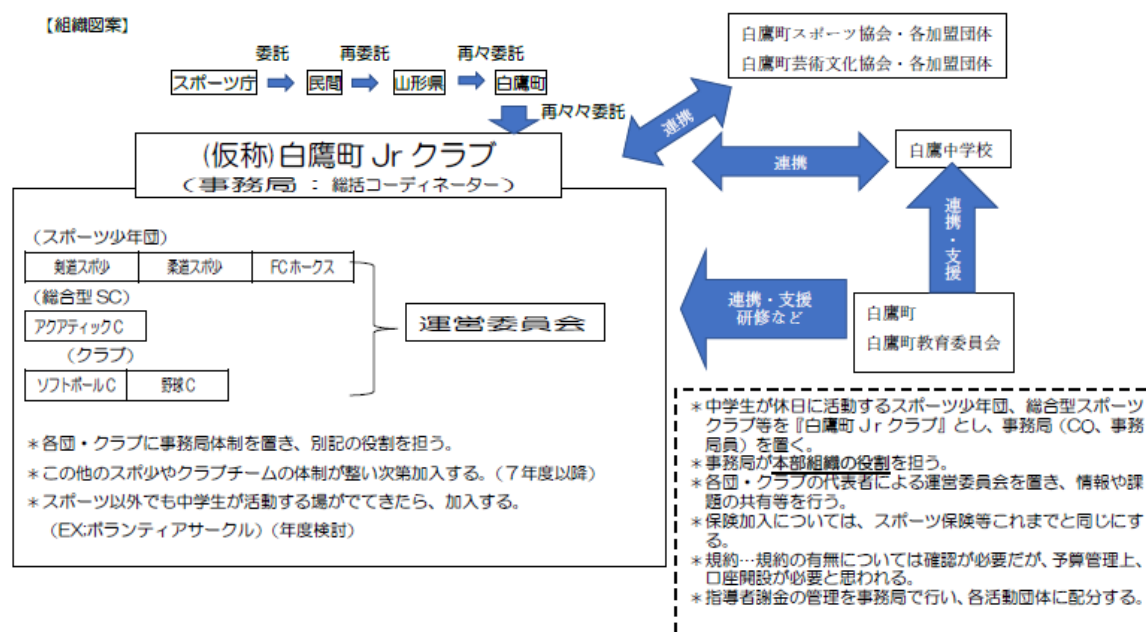
拠点校数	白鷹町立白鷹中学校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	なし
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	0 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	白鷹町立白鷹中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	0 部活
地域クラブ活動で実施した種目	なし
運営主体名	—
運営類型	—
1 か月あたりの平均的な活動回数	—
指導者の主な属性	—
活動場所	—
主な移動手段	—
1 人あたりの参加会費等(年額)	—
1 人あたりの保険料	—

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図） R6からの案



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・9月に地域部活動推進協議会を実施し令和8年度からの完全実施を目指して、総括コーディネーターの設置。町教育委員会と総括コーディネーターを中心に、運営体制（案）の作成や今後の流れを共有した。
- ・各種目スポーツ少年団とクラブ指導者対象のアンケートを11月に、小学4年から6年児童対象のアンケートを1月に実施し、現状把握と課題の洗い出しを行った。
- ・12月に町スポーツ振興懇談会を行い、立教大学教授より部活動地域移行や地域スポーツについて提案、助言をいただいた。

取組の成果

- ・1月に実施した小学4年から6年生294人を対象としたアンケート（回答率73%）の結果、回答者の5.4%（16人）が平日および休日において、通年、地域クラブで活動したいと考えている。また、20.1%（59人）が平日の部活動の他に、休日の地域クラブ活動に参加したいという結果となった。
- ・地域クラブで活動する際の種目について、74.6%（44人）が部活動と同じ種目、25.4%が違う種目という回答であった。P.6～7 参照

特に工夫した事項

- ・指導の実態や課題、児童アンケートをすり合わせ、課題の整理や解決策、組織の役割等を検討した。それらを基に休日活動ができるかどうかの判断をし、提案した。P.8～9

今後の課題と対応方針

指導者アンケートから見てきた指導者に関する課題、活動準備に関する課題、運営に関する課題とともに、本部組織や各クラブの役割を精査し、組織として課題解決にあたっていけるように、運営団体と実施主体を整備していきたい。

2. 実証内容と成果

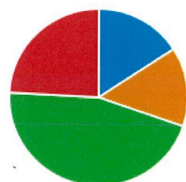
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

【小学4年から6年児童のトータル結果】

中学校入学後の休日の過ごし方についての意識調査

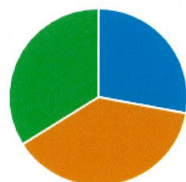
1. 小学校名を選んでください。

蚕桑小	34
鮎貝小	31
荒砥小	98
東根小	52



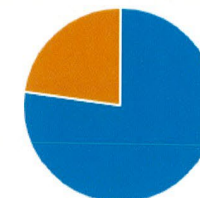
2. 学年を教えてください。

4年生	60
5年生	82
6年生	73



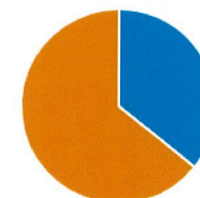
3. 部活動に入りたいですか。

Yes	166
No	49



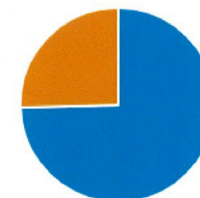
4. 部活動の他に、地域クラブにも入りたいですか。

Yes	59
No	106



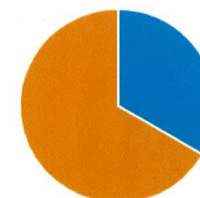
5. 【 A 部活動 + 地域クラブ 】タイプのみなさん どの【パターン1】、【パターン2】のどちらを
考えていますか。

【パターン1】平日は、部活動で活動...	44
【パターン2】平日は、部活動で活動...	15



6. 地域クラブに入り、活動したいですか。

Yes	16
No	32

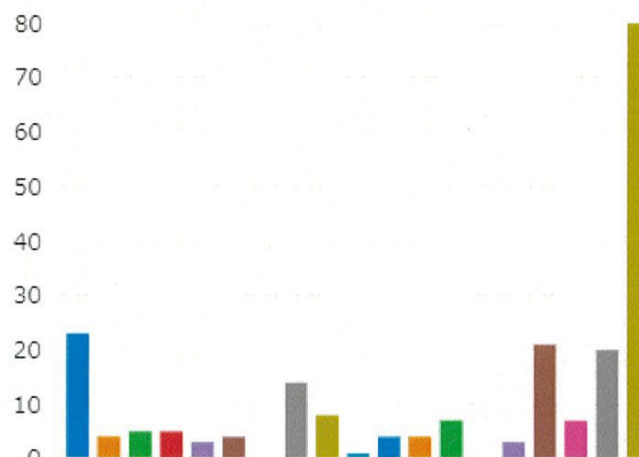


2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

7. 休日（祝日、土曜日または日曜日）は、何をして過ごしたいですか。1つ選んでください。

野球	23
ソフトボール	4
陸上	5
ソフトテニス	5
バスケットボール	3
バレーボール	4
卓球	0
サッカー	14
水泳	8
柔道	1
剣道	4
バドミントン	4
スキー	7
吹奏楽	0
美術	3
習い事（ピアノ、習字等）	21
その他（囲碁、将棋、合唱、ダンス...	7
スポ少やクラブ、習い事等は、しない...	20
まだ分からない	80

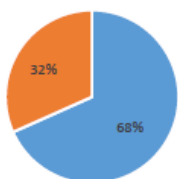


2. 実証内容と成果

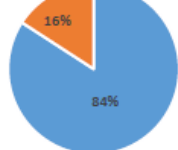
【小学4年から6年児童の学年別結果及び考察】

4年

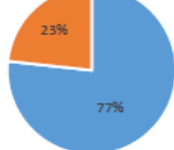
4部活動に入りたいですか。



5年

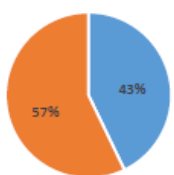
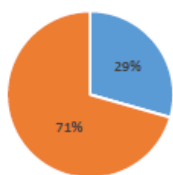
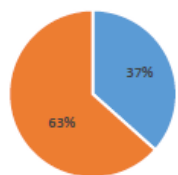


6年



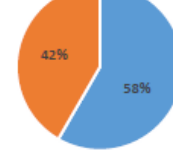
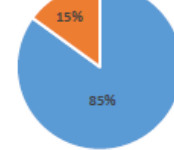
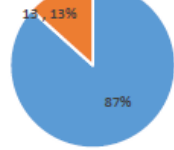
・学年間の違いはあるが、概ね加入を考えている児童は7割強(166人)。未加入を考えている児童は2割～3割(49人)という結果であった。低学年に行くにしたがって、加入希望率は下がる傾向であった。部活動というものの自体への理解が、まだできていないことが要因と考えられる。

5部活動の他に地域クラブにも入りたいですか。



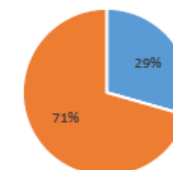
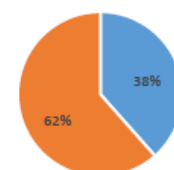
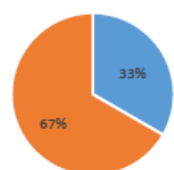
・学年間の違いはあるが、概ね地域クラブ加入を考えている児童は3～4割(59人)。平日の部活動はともかく、休日の活動については、はっきりしていないと考えられる。

6パターン1 部活動+同じ種目の地域クラブ
パターン2 部活動+違う種目の地域クラブ どちらを考えていますか。



・予想通り、「平日 部活動 + 休日 地域クラブ」を考えている児童は、同じ種目を希望している。小学校(スポ少)で継続してきた種目を中学校でも続けたいという理由と思われる。(小4、5で85%越)ただし、6年生で58%となっている。中学校への入学をきっかけに、また、別の種目に興味を持ち始めているのか、平日と休日で違うことをしてみたいという考えも推測される。

7(部活動には入らないが) 地域クラブに入って活動したい。



部活動に加入しない予定の児童が49名。そのうち、地域クラブには加入予定の児童は16名であった。既存のクラブ(ながいU、モンテディオ、野球クラブ等?)を継続していくことが理由と思われる。一方、部活動+地域クラブ 両方に加入しないという児童は32名(約15%)

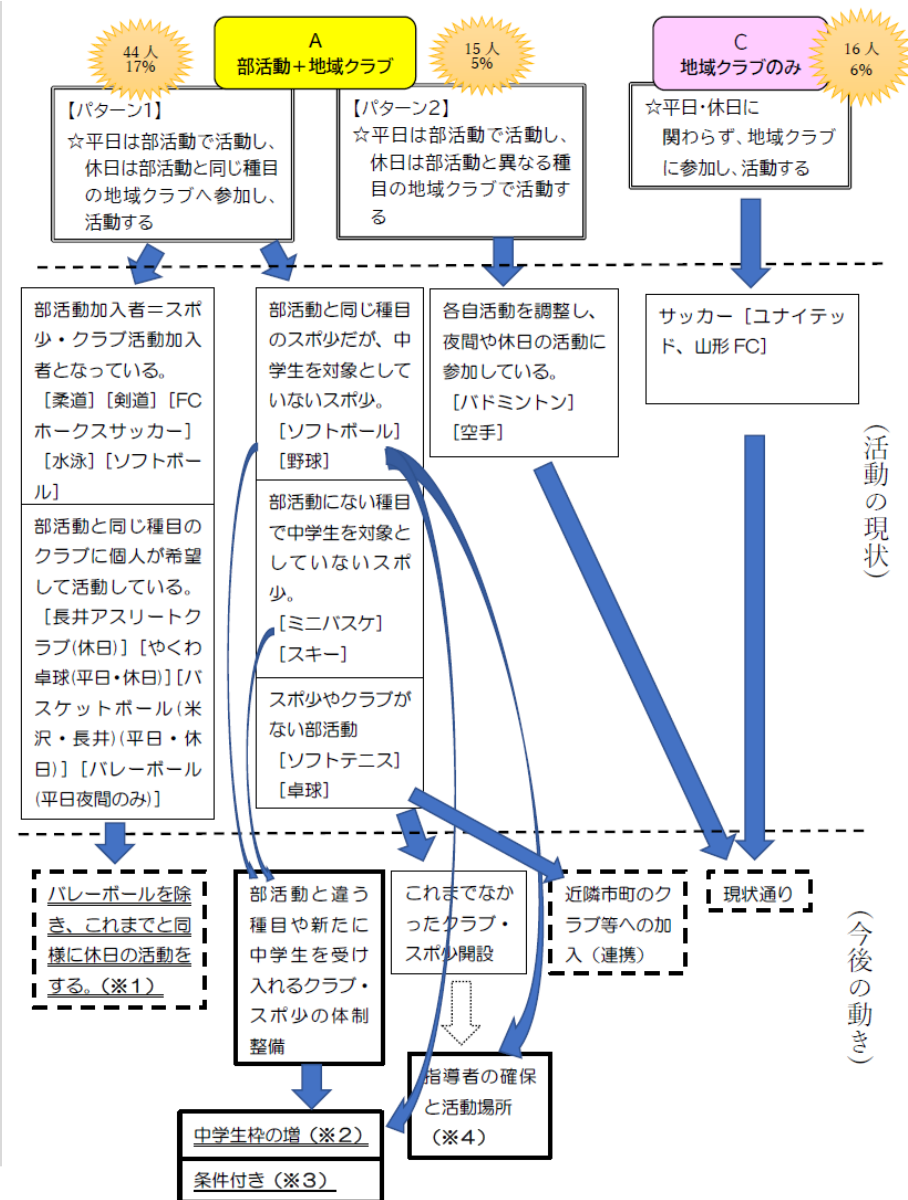
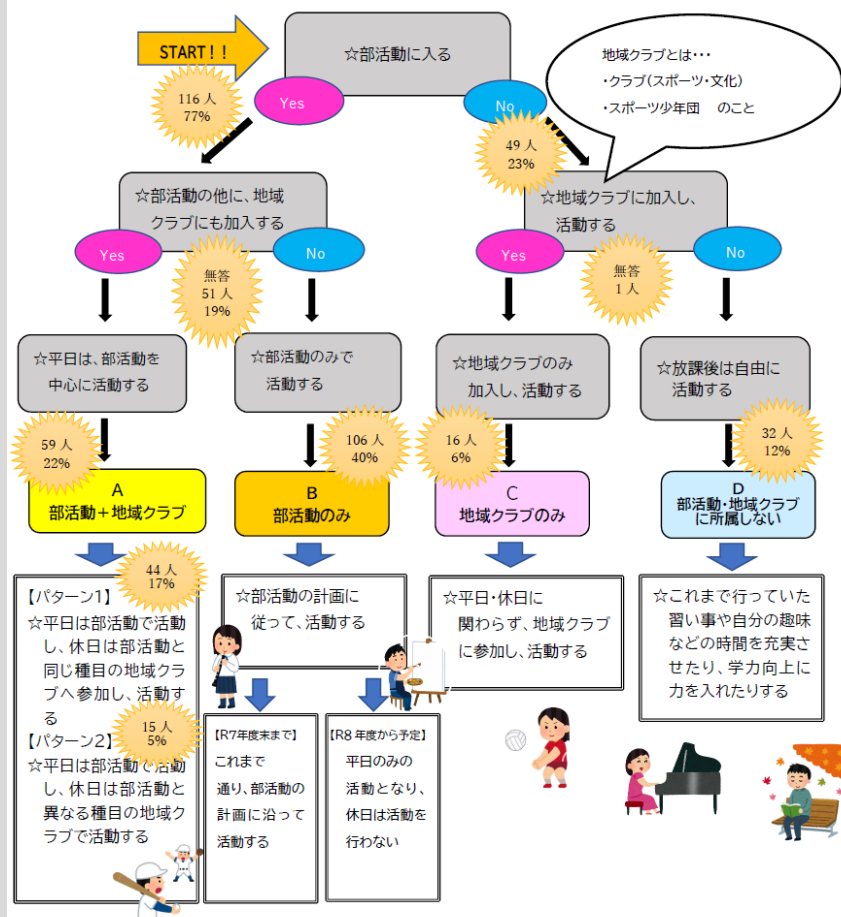
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

中学校に入学したら・・・

自分はどのように過ごしていきたいか
下のチャート図を使って考えてみよう！！

令和6年度から、白鷹中学校含め、西置賜管内の中学校は、
全員加入制から、所属するかどうかを選択できる**任意加入制**に変わります。



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

種目	部・スポ少	中学生を含む クラブ活動の 現在の状況	指導者の人数	指導者の属性	懸念事項 (課題)	休日活動実施 可能
野球	野球部	×	1	○	※2 ※4 ・外部指導者及びスポ少指導者体制の確立 ・スポ少の統一化は？	
	リトルホークス	△	10	○		
	鮎貝野球スポ少		3			
ソフトボール	ソフトボール部	クラブ	○	2	○	△
	フェニックス Jr スポ少		○	4	○	○
サッカー	サッカー部	スポ少 (FC ホークス)	○	8	○	※1 ◎
	FC ホークス スポ少	小学生	○	7	○	
	エスペランサ FC スポ少	白鷹中の生徒はいない。	○	6	○	※1 ◎
テニス	男子テニス部		×			
	女子テニス部		○	1	?	
卓球	卓球部	任意クラブ教室あり 外部クラブ加入者あり	△	2	?	△
剣道	剣道部	スポ少	○	5	○	※1 ◎
柔道	柔道部	スポ少	○	6	○	※1 ◎
バスケットボール	男子バスケット部	外部クラブ加入者あり		1	・外部クラブは中体連加入をしない ・外部加入していない生徒の活動	
	女子バスケット部	外部クラブ加入者あり				
	ミニバスケスポ少		○	5	○	○
バレーボール	女子バレー部		○	2	×	△
	バレースポ少				・指導者の確保 ・日程調整、連絡等 ・長井アスリートクラブへ ・長井アスリートCに加入しない生徒の活動	※1 ◎
陸上	陸上部	外部スポ少に複数名加入し休日練習に参加	○	1	△	○
	ジュニアアスリートスポ少		○	6	○	○
水泳	水泳部	ロック加盟(高校生含む) 外部団体に個人で加入	○	3	×	※1 ◎
バドミントン	バドミントン部(中体連加盟)	活動は長井のスポ少で			・これまで通り	
	スポ少		○	3	×	○
スキー	スキー部	スポ少(3団体)	○	50	○	◎
	レーシングスキースポ少			2	・6年度から活動なし	◎?
空手	空手部	スポ少		6	・長井の空手スポ少で活動している生徒 ・個人で ・荒砥高校との合同練習?	
美術	美術部					
吹奏楽	吹奏楽部					

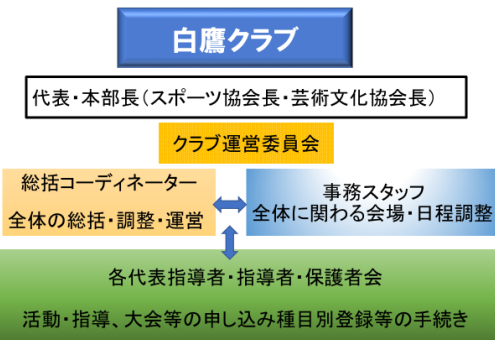
パターンA 既存の部活動をベースにクラブ化する

	平日	休日
実施活動	部活動	クラブ活動 スポーツ少年団活動
運営母体	学校	クラブ スポーツ少年団
活動経費	保護者(会) 学校後援会	保護者

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○既存の部活動をベースに運営ができる。 ○スケジュール調整(時間・会場)がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の負担軽減が図れるか。 ●活動するための用具(ボール等)の管理 ●現在の白鷹中の教室配置では、校舎内全てで開放することになり、管理面で不安。 ●コーチ等の外部指導者がいない部活動は活動不可。 ●会場・日程調整

パターンB 白鷹クラブ

	地域 総合型スポーツ・文化クラブ	地域 スポーツ少年団
	代表・クラブ代表指導者	本部長・団代表・指導者
	指導者 ↓ 地域クラブ活動	指導者 ↓ スポ少活動
可能	陸上 ソフト	サッカー 柔道 剣道
要検討	女子バレー 男女テニス 卓球 吹奏楽 美術 バスケット 水泳(※別クラブあり)	
活動経費	保護者 白鷹クラブから一律	保護者 白鷹クラブ(スポ少)から一律
メリット	○実施母体(指導体制)がない種目について、クラブ化にすることで、生徒のニーズに応じた活動が可能。	●組織設立(クラブ)の規約等、組織体制づくり
デメリット	○既存の組織(スポ少)を生かしていくことで、運営のスタートが比較的容易。	●地域クラブとスポ少との相違 ●現在のスポーツ少年団が中学生対象の少年団設立をどう考えるか? また、指導者として可能か?(活動日数が増より)



パターンC 白鷹クラブ

地域総合型スポーツ・文化クラブ	実施母体
代表・本部長(スポーツ協会長 芸術文化協会長)	
コーディネーター・事務スタッフ	
代表指導者・指導者 ↓ 地域クラブ活動	
代表指導者・指導者 ↓ 地域クラブ活動	
代表指導者・指導者 ↓ 地域クラブ活動	
陸上 ソフト サッカー 柔道 剣道	可能
女子バレー 男女テニス 卓球 野球 吹奏楽(中高 合同活動・荒高) 水泳(※スイミング) バスケ(※別クラブあり) 美術(土日は個別創作活動)	要検討
保護者 白鷹クラブから一律	活動経費
○実施母体がない種目について、クラブ化にすることで、生徒のニーズに応じた活動が可能。	
○既存の組織(スポ少)を生かしていくことで、活動スタートが比較的容易。	
●クラブ設置数・種目の精選・決定、指導者および生徒の確保。	
●町全体として、クラブ化することにより、組織設立、運営(規約、活動、費用、会場)までの検討が必要。	メリット デメリット

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

現在、町内スポーツ団体で活動されている代表者や指導者に出向き、今後の方向性についての説明を行いながら、実際、指導にあっている人数や指導者資格等の確認、休日指導の可否他、指導体制や指導内容、課題点等についての意見をとりまとめた。また、12月に開催された白鷹町スポーツ振興懇談会にも参加いただき、沼澤教授の講演をお聞きし、今後の方向性や指導者として必要な知識や技能についても学んだ。

取組の成果

中学生が休日にスポーツ少年団の活動として活動している団体は、現段階では、指導者の量の確保については問題なく進めることができると想定しており、既存の団体を母体としながら、休日の活動については、地域クラブとして活動していける目途がついている。P.12 参照

特に工夫した事項

特になし。

今後の課題と対応方針

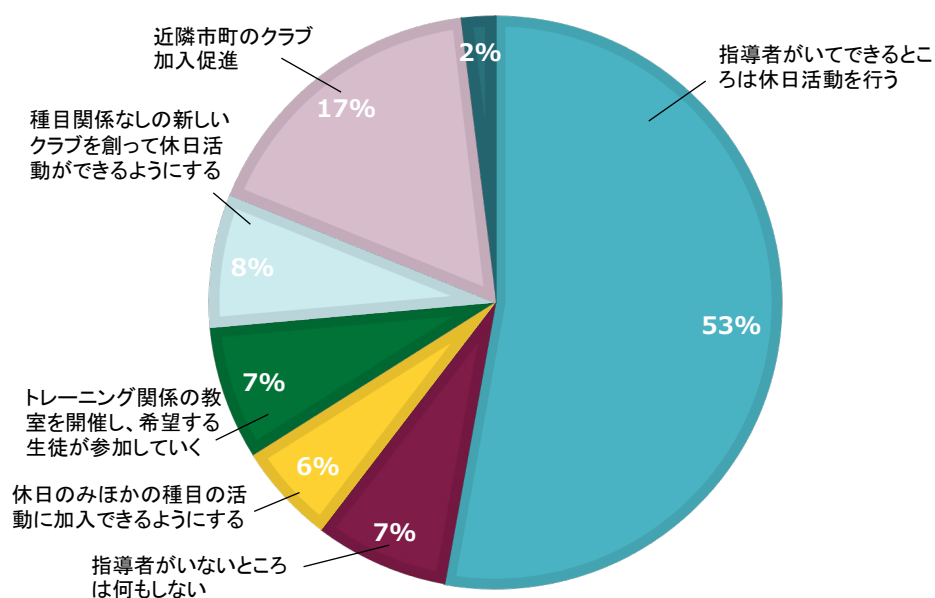
現在、休日にスポーツ少年団として活動している団でも、種目によっては指導者資格がなく指導している人も多い。指導者の質の保証をしていくために、町としてどのように指導者資格を推し進めていくのか、また、独自の研修会を通して、より信頼される指導者として活動できるように、質の向上と資格取得に対する方針をまとめていかなければならない。

また、指導者に対する謝金の財源が最終的な課題となるため、指導人数や指導回数等を基準に必要な額を提案していけるようにしたい。自治体レベルでは補助金等の確保が難しい。

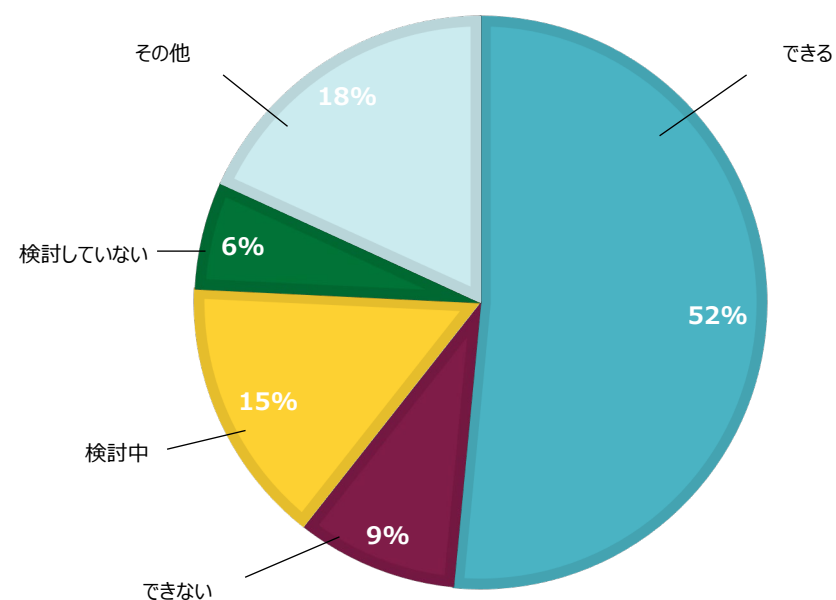
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

休日の望ましい活動の仕方



休日に中学生の活動の指導ができるか



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

令和8年度の完全移行を見据えて、本町では、「地域の子供は地域で育てる」を基軸に、持続可能な活動にしていくことを推進協議会で確認した。令和5年度は、活動の主体となる児童生徒およびスポーツ関係団体の考えを丁寧に聴き取りながら、課題点を洗い出し、実証につなげていくことを大切に進めた。

取組の成果

今年度、2回の地域移行推進協議会やスポーツ団体への説明会、中学校入学説明会の機会に小学校6年生および保護者を対象にした地域移行に関する説明会を行った。また、指導者に対しては、コーディネーターから改革の趣旨の説明、アンケート要請を行った。また、町スポーツ振興懇談会では、地域移行に関する講演をいただいた。様々な意見を聞く中で、地域移行に関しての理解度は、まだまだ高くないことが分かり、ねらいも含め、今後のビジョンを丁寧に説明していくことの必要性を感じた。また、他市町との情報交換を活発に行うことで、今後、想定される他市町との連携についても検討していくことができた。

特に工夫した事項

アンケートの質問項目やパンフレット等も小学生にとっても理解しやすい内容（P.9参照）にし、Formsでアンケートを実施する等、高い回答率を得るよう工夫した（P.6～8参照）。その結果、前年度のアンケート回答率は38%だったものが、今年度は73%という回答率となった。

今後の課題と対応方針

令和6年度からの具体的種目を決定し、運営・実施を行う中で、課題を洗い出しながら進めていく。適時、推進協議会および指導者との打ち合わせを行い、円滑に実施できるよう配慮していく。また、児童生徒はもちろん、保護者や町民への丁寧な説明が不可欠であることから、お便りや町ホームページでの掲載、説明会等も検討している。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

指導者アンケートの項目に「休日に学校施設が使用できなくなった場合、活動できる施設の有無」について質問し、町内各体育施設やコミュニティセンター等の施設の洗い出し、種目に応じた場所の確保について検討を行った。
また、各小中学校、近隣の高校の週末の貸し出し状況を町生涯スポーツ係と確認を進めている。

取組の成果

現在、休日の活動は、学校部活動、スポーツ少年団いずれもほぼ学校施設を利用している。休日に学校施設が使用できなくなると活動できない部が半分となることが明らかになった。また、屋外競技でも冬場の活動場所が限られ、冬場や雨天時の活動場所の整備が求められている。

13 中学校校舎利用の室内種目の方に伺います。休日の活動を実施していく上で、中学校校舎内が使えないとしたら、活動場所はありますか。	
⑤ (1) ある	・山峡体育館（正式コートでないので練習のみ）（ミニバスケ） ・旧鷹山小学校（卓球）
⑤ (2) ない	・雨天時や冬季は学校が使えないと練習場所がない。長井・米沢は競技場の除雪をしないので、管外（県外）の施設に行かなければならない。（陸上）
【集約と考察】 屋内競技については、場所を変更してできる種目が多いが、冬季の陸上はない。	

特に工夫した事項

特になし。

今後の課題と対応方針

学校施設を中心に使用して活動していけるが、中学校校舎を利用する場合、教室棟への出入りが規制できない状況になるため、学校職員不在の状況での活動はできない。中学校施設を使用できるようにするための改修工事や使用上の約束等の検討が必要である。

冬場の活動場所に課題のある屋外種目については、近隣市町も含めた活動場所の確保について検討が必要である。

学校施設の具体的改修については、使用する団体の今後の活動の見通しや使用上の約束等をつくりながら、町へ要望していく。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 白鷹町部活動地域移行推進協議会
町スポーツ協会
町文化芸術振興会
町校長会
教育委員会事務局
- ・令和5年9月に実施。
- ・現状の確認および基本構想（案）の提案、課題点の洗い出し。
- ・実施にあたって、主体となる役割を誰が担うのか、指導者の確保、財源の確保ができるのかが大きな課題となった。

- 白鷹町地域移行
総括コーディネーターを教育委員会事務局に配置
- 9月の推進協議会を受けて、より詳細に課題点を洗い出した。また、受け皿となるであろうスポーツ少年団本部との情報交換や指導者へのアンケートを通して、現状把握に努めた。
- 地域移行が可能な部活動種目を決め、令和6年度の休日活動の進め方について2月の推進協議会で提案。実証事業開始の時期や期間、今後の指導者謝金、完全移行時の留意点、児童生徒全員へのスポーツや健康のPR等について課題が出された。

地域移行 基本構想

	第1期	第2期	第3期	最終期
期間	基本構想 組織体制	組織体制 クラブ試験運用	クラブ試験運用 最終調整期間	
地域部活動 推進協議会	・基本構想 ・アウトラインの構築 ・組織体制	・実施、運営の確認 ・組織体制 ・諸課題の確認・周知	・実施の最終確認 ・全体への周知	
地域クラブ 白鷹クラブ（仮称）	・コーディネーター委嘱 ・推進協議会の運営 ・学校・関係機関・団体との連絡調整 ・他市町との情報交換	白鷹クラブ説明会 秋～ 試験運用 （実施可能種目から）	白鷹クラブ説明会 全種目 試験運用	白鷹クラブ説明会
学校・部活動 （土、日）	現行体制で実施 任意加入について説明 ・中学校 3月・4月PTA総会 ・小学校 児童・保護者向け 秋～冬（案）	現行体制で実施 部活動 白鷹クラブ 連絡会	現行体制で実施 部活動 白鷹クラブ 連絡会	

中体連主催大会については 白鷹中〇〇部で参加
理由：県中体連地域クラブ参加要件細則より、地域クラブは県大会より参加資格があるため、地区大会からは出場することができない。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

地域移行 基本構想

	第1期	第2期	第3期	最終期
期間	基本構想 組織体制	組織体制 クラブ試験運用	クラブ試験運用 最終調整期間	
地域部活動 推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想 アウトラインの構築 組織体制 	<ul style="list-style-type: none"> 実施、運営の確認 組織体制 諸課題の確認・周知 	<ul style="list-style-type: none"> 実施の最終確認 全体への周知 	
地域クラブ 白鷹クラブ(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーター委嘱 推進協議会の運営 学校・関係機関・団体との連絡調整 他市町との情報交換 	<div>白鷹クラブ説明会</div> <div>秋～試験運用 (実施可能種目から)</div> <div>白鷹クラブ説明会</div>	<div>全種目試験運用</div> <div>白鷹クラブ説明会</div>	
学校・部活動 (土、日)	<div>現行体制で実施</div> <div>任意加入について説明 ・中学校 3月 4月PTA総会 ・小学校 児童・保護者向け 秋～冬(案)</div>	<div>現行体制で実施</div> <div>部活動 白鷹クラブ 連絡会</div>	<div>現行体制で実施</div> <div>部活動 白鷹クラブ 連絡会</div>	

中体連主催大会については 白鷹中〇〇部で参加
理由：県中体連地域クラブ参加要件細則より、地域クラブは県大会より参加資格があるため、地区大会からは出場することができない。

**【山形県飯豊町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県飯豊町
担当課名	社会教育課
電話番号	0238-72-3111

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	6,499人	部活動数	9部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	154人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

飯豊中学校においては、学級・学年の枠を超えた集団の中でスポーツや文化活動を行うことを通して、一人ひとりの心身の調和的な発達を図るとともに、目標を持ちその達成のために互いに支え合い、精一杯努力できる生徒を育て、生涯にわたって、スポーツや文化活動に親しんでいく素地をつくることを目標に、運動部7部、文化部2部が活動を行っている。

課題として、部員数の減少により、単独チーム編成や団体戦メンバーを確保できない部も存在し始めている。

また、休養日を設けているものの、土日を含む時間外の指導が顧問の負担となっている。

部活動の地域移行については、指導者の確保や、受け皿となる団体の整備等課題は多い。このような中、総括コーディネーターを配置し事業を推進する計画であったが選任するには至らず、事業を実施することは困難であった。

○部員数（現中学1・2年生）

野球部：13人
サッカー部：19人
柔道部：2人
卓球部：男子12人/女子2人
ソフトテニス部：5人
バスケットボール部：10人
バレーボール部：14人
吹奏楽部：6人
美術部：14人

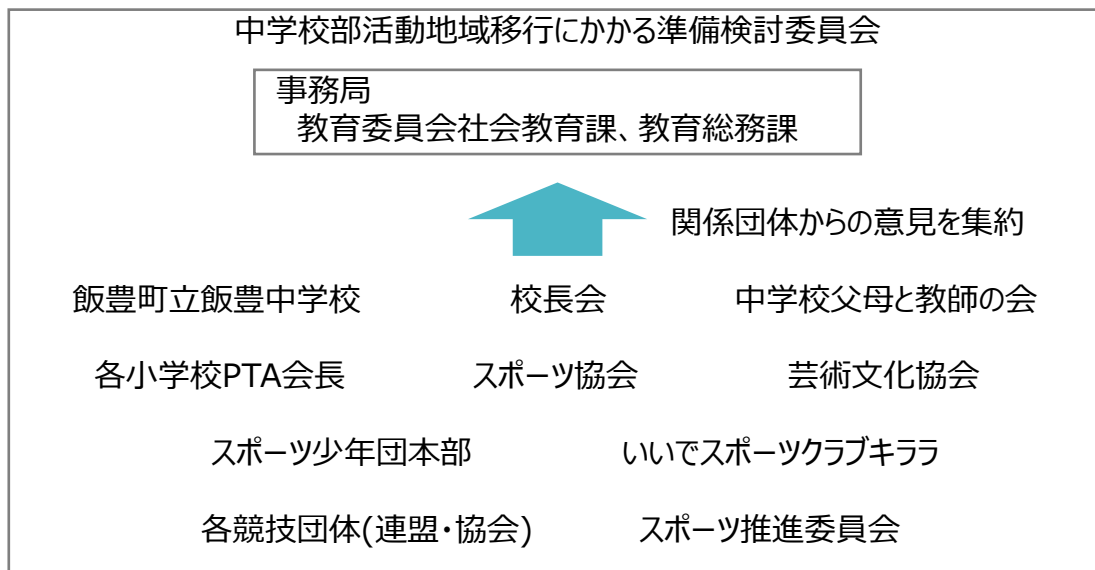
○部活動コーチ数

野球部：2人
サッカー部：3人
柔道部：3人
卓球部：2人
ソフトテニス部：1人
バスケットボール部：2人
バレーボール部：2人
吹奏楽部：1人
その他（陸上競技1人、スキー3人）

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務課）

- ・中学校との連絡・調整
- ・外部指導者の調整
- ・保護者・生徒への地域移行にかかる情報提供

● 教育委員会（社会教育課）

- ・総括コーディネーターの配置
- ・運営団体の組織化
- ・指導者の確保

年間の事業スケジュール

令和6年1月23日「中学校部活動地域移行にかかる準備検討会」開催

今後、中学校部活動地域移行にかかる準備検討会で出された意見、質問事項等を整理し検討を重ねながら、準備委員会等の組織を設置予定。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

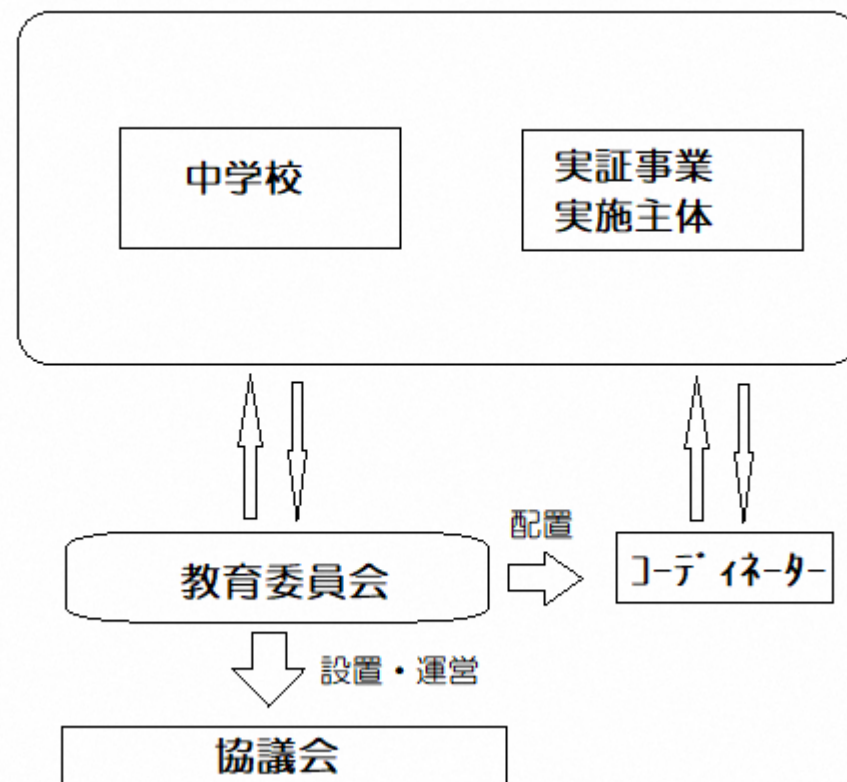
拠点校数	飯豊中学校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	なし
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	0 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	飯豊中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	0部活
地域クラブ活動で実施した種目	なし
運営主体名	—
運営類型	—
1 か月あたりの平均的な活動回数	—
指導者の主な属性	—
活動場所	—
主な移動手段	—
1 人あたりの参加会費等(年額)	—
1 人あたりの保険料	—

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会を実施した。（1月23日）
県部活動改革ガイドライン説明、先進事例の紹介（鮭川村）、質疑・意見交流を行った。
- ・コーディネーターの配置ができず、行政担当で事業を進めた。

取組の 成果

- ・関係団体に対して、部活動改革における現状や考え方を広めることができた。
- ・来年度以降の町の推進計画やガイドライン、運営体制の構築に向けた足掛かりをつくることができた。

特に 工夫した 事項

- ・人口などが同規模の鮭川村の実践事例をお聞きすることで、より実感を伴った理解につなげることができた。
- ・関係団体から幅広く準備検討委員を委嘱することで、様々な視点で意見をいただくことができた。

今後の 課題と 対応方針

- ・コーディネーターの適任者の人選が課題であるが、早期のコーディネーターの配置により、事業のスムーズな運営につなげたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会を実施した。（1月23日）
県部活動改革ガイドライン説明、先進事例の紹介（鮭川村）、質疑・意見交流を行った。
- ・コーディネーターの配置ができず、行政担当で事業を進めた。

取組の 成果

- ・次年度以降、地域クラブ活動を実施するにあたって、関係団体から指導者を派遣いただくことが必要になるので、関係団体の代表の方の理解を深めることができたのは有益であった。

特に 工夫した 事項

- ・実際に現場で子どもたちの指導にあたり、受け皿として期待されるスポーツ少年団の単位団指導者を準備検討委員として委嘱した。
それぞれの団で中学生を受け入れることを想定して課題等を挙げていただくことができた。

今後の 課題と 対応方針

- ・地域移行にあたり、指導者の確保が大きな課題であるが、スポーツ少年団指導者や中学校外部コーチ等による指導者確保に努める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

・生徒のニーズに応じた活動の検討のため、生徒へのアンケートを実施する計画であったが、コーディネーターを配置できなかったことで今年度の実施はできなかった。

取組の 成果

・生徒アンケートが実施できなかったため、成果なし。

特に 工夫した 事項

・生徒アンケートが実施できなかったため、工夫した点はなし。

今後の 課題と 対応方針

・アンケートを実施できず、生徒のニーズ把握が課題となったため、来年度、アンケートを確実に実施し、児童・生徒等のニーズを把握する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

・1月の中学校部活動地域移行にかかる準備検討会では、学校施設の活用についての具体的な検討はできなかったが、終了後のアンケートにおいて「活動場所・用具の確保」を大きな課題として挙げている委員が4名いた。

取組の成果

・地域クラブ活動の実施に当たっては、活動場所として学校施設の開放や、学校備品等を貸し出しを求める声が具体的に挙がった。

特に工夫した事項

・特になし

今後の課題と対応方針

・町内の施設が限られており休日の活動場所の確保に課題はあるが、地域クラブ活動の実施に向けて、鍵の貸し出しや会場使用のルール作成など、必要な準備を進めたい。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

○山形県教育局スポーツ保健課 生涯スポーツ主査 仙野 達也 氏
・本県の取り組み
・「山形県における部活動改革のガイドライン」について
・山形県における部活動改革の進捗状況

○さけがわ友遊クラブ クラブマネージャー 阿部 諭 氏
・鮭川村のこれまでの取り組みの経緯

○鮭川村 教育委員会 黒坂 洋平 氏
・鮭川村における行政対応

○さけがわ友遊クラブ クラブマネージャー 伊藤 淳子 氏
・鮭川村における現在の活動状況

○現在、小学生や中学生にクラブや部活動などでスポーツの指導を行っていますか。
はい 10人
いいえ 31人

○今後、飯豊町の休日の中学生の部活動の段階的な地域移行を進めていく上で、どのようなことが課題になると思いますか。

- ① 指導者の確保……………32人
- ② 活動場所・用具の確保……………4人
- ③ 全体を統括する運営体制の整備……………17人
- ④ 顧問とクラブ間の連携・調整……………11人
- ⑤ 家庭の金銭的負担の増加……………18人
- ⑥ 交通手段の確保……………8人
- ⑦ 生徒・保護者の理解の促進……………12人
- ⑧ 生徒のニーズの把握・ニーズへの対応…4人
- ⑨ 指導者向けの研修会……………3人
- ⑩ その他（財源問題）……………1人

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【研修会場】



【講師陣への質問記入】



【講師陣による質問事項の整理】



【講師陣による回答】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年1月

令和6年3月（予定）

令和6年度～

「中学校部活動地域移行にかかる
準備検討会」開催

準備組織の設置に向けた検討会の
開催

山形県のガイドラインに沿った事業の
検討・実施

・人口など、同規模の自治体で先進地である鮭川村の取り組みを学ぶことで、当町の実情にあった地域移行が想定できるように設定した。

・参集範囲を広げ、各小中学の校長や保護者代表、文化活動団体、スポーツ協会やスポーツ推進員のほか、各競技団体やスポーツ少年団の指導者など関係する多くの人に部活動の地域移行に関する現状の理解と情報を共有することを目的とした。

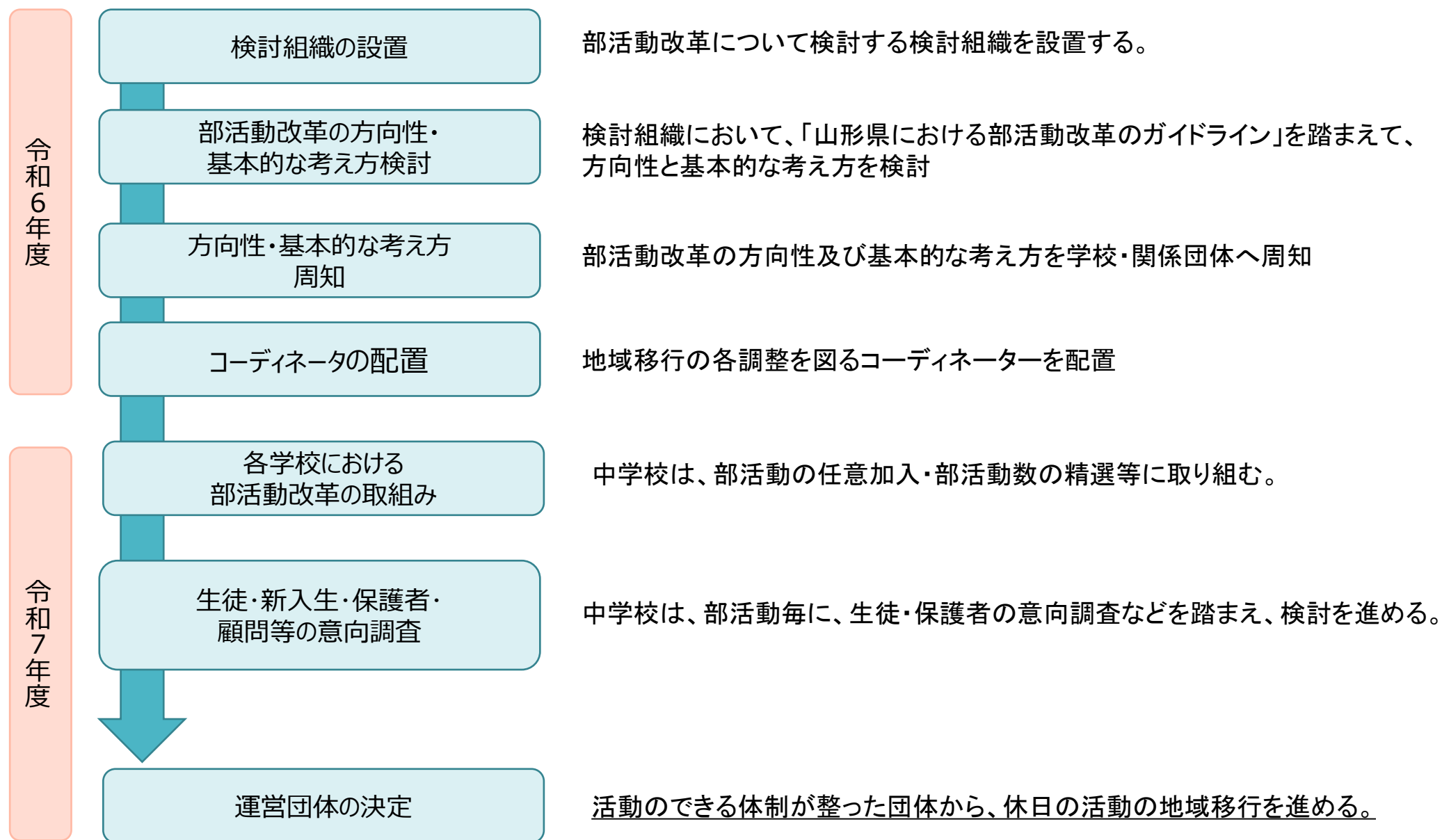
・参加者からの意見や課題を集約することで次年度以降の検討材料となるようアンケートを実施した。

・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会での意見、質問を議論し、アンケート結果等を考慮し、準備組織の立ち上げに向けた検討会を実施予定

・検討組織の設置
・コーディネーターの配置
・指導者確保
・運営団体の決定 等

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



**【山形県鶴岡市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県鶴岡市
担当課名	学校教育課
電話番号	0235-57-4864

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	118,692人	部活動数	131部活
公立中学校数	11校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	R3 設置検討済
公立中学校生徒数	2,949人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	R3 計画及び方針等策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、令和5年度より、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、保護者会クラブ、民間クラブ、合同部活動等が受け皿となり、土日休日の部活動（練習）が行われている現状である。

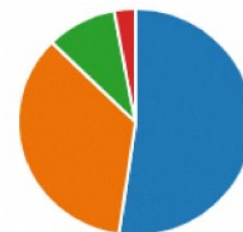
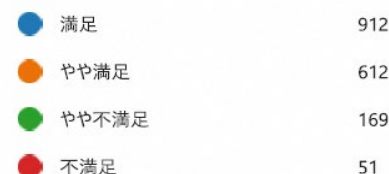
11月に行った部活動改革に関わるアンケート調査によると、土日休日の活動形態については、総合型地域スポーツクラブが19%、スポーツ少年団15%、保護者会クラブ36%、民間クラブ18%、合同部活動8%等となる。生徒は、「以前に比べ選択の幅や他校との交流の広がり、自分のニーズにあった活動が展開される」などの理由から約9割が満足・やや満足と回答した。保護者からは、地域移行に伴い、移動手段やそれに伴う経費の負担が増えたと回答した。指導者は理解を示す一方、負担や責任が増えたと回答した。教職員は「業務負担が軽減された」「自身に合ったワークバランスが保たれる」など感じている一方、希望する教員が自由選択（兼職兼業）できる仕組みが必要だと望む声があった。現在、本市では6名が兼職が認められている現状である。

今後の課題としては、「①土日休日の大会や各事業の地域移行」「②保護者会クラブに代わる持続可能な地域クラブ活動の体制整備」があげられる。①については、大会運営スタッフの人材不足であったり、地域指導者や保護者にかかる負担の増加、施設や審判の確保などが課題となる。②については、規約に基づく持続可能な運営や指導者への報酬、保険の加入、クラブ運営者(マネジメントできる)人材の確保も重要である。

土日休日の活動形態 部活動改革に関わるアンケート調査より(R5.11.1現在)



現在の土日休日のスポーツ文化・活動の満足度
(市内中学生1,744人回答)



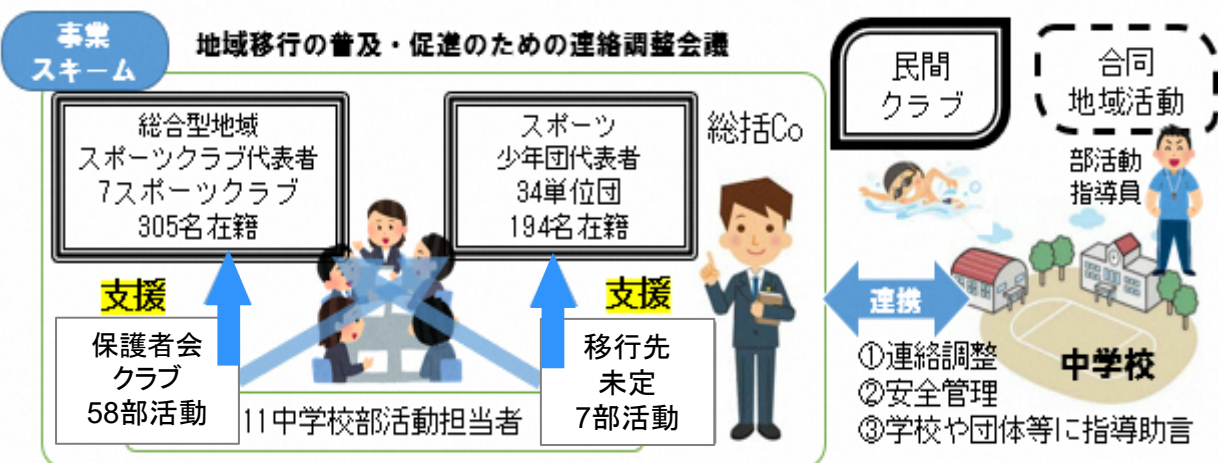
《考察》

- ・中学生は、以前に比べ選択の幅や他校との交流が広がり、自分のニーズにあった活動に打ち込めていることなど、約86%が「満足・やや満足」と回答した。
- ・スポーツ・文化活動に主体的に参加し、自分自身の成長を実感している半面、学業との両立に悩んでいる中学生が多い。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **鶴岡市教育委員会**（学校教育・スポーツ・社会教育・管理課）
 - 学校教育課…部活動改革全般に関わること
 - スポーツ課…スポーツ協会との連携、施設利用に関わること
 - 社会教育課…芸術文化協会との連携、施設利用に関わること
 - 管理課…学校施設設備・備品・大会補助・スクールバス等
- **首長部局**（政策企画・商工・地域振興課）
 - 政策企画課…総合計画の位置づけ・企業版ふるさと納税等
 - 商工課…スポーツに関わる企業の誘致や連携
 - 地域振興課…市内巡回バスに係る地域連携

年間の事業スケジュール

4月	学校教員の指導の下に行われる部活動は月曜～金曜までの平日のみとし、土日休日は地域が主体となる活動を実施 国や県のガイドラインを踏まえ、本市のガイドラインの見直し検討 市招集校長会議で部活動改革について説明
7月	第1回地域移行の普及・促進のための連絡調整会議(スポーツ少年団立上げクラブ指導者から説明)
11月	鶴岡市部活動改革に関わるアンケート（中学生・保護者・指導者・教職員対象）
12月	第2回地域移行の普及・促進のための連絡調整会議(実証事業対象クラブ『陸連・合唱団』からの成果と課題報告)
1月	田川地区中学校体育連盟加盟の各競技団体への全体説明（今年度の成果と来年度の方向性の確認）
2月	13競技団体(バスケット・バレー・サッカー・陸上・・・など)との連絡調整会議
3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

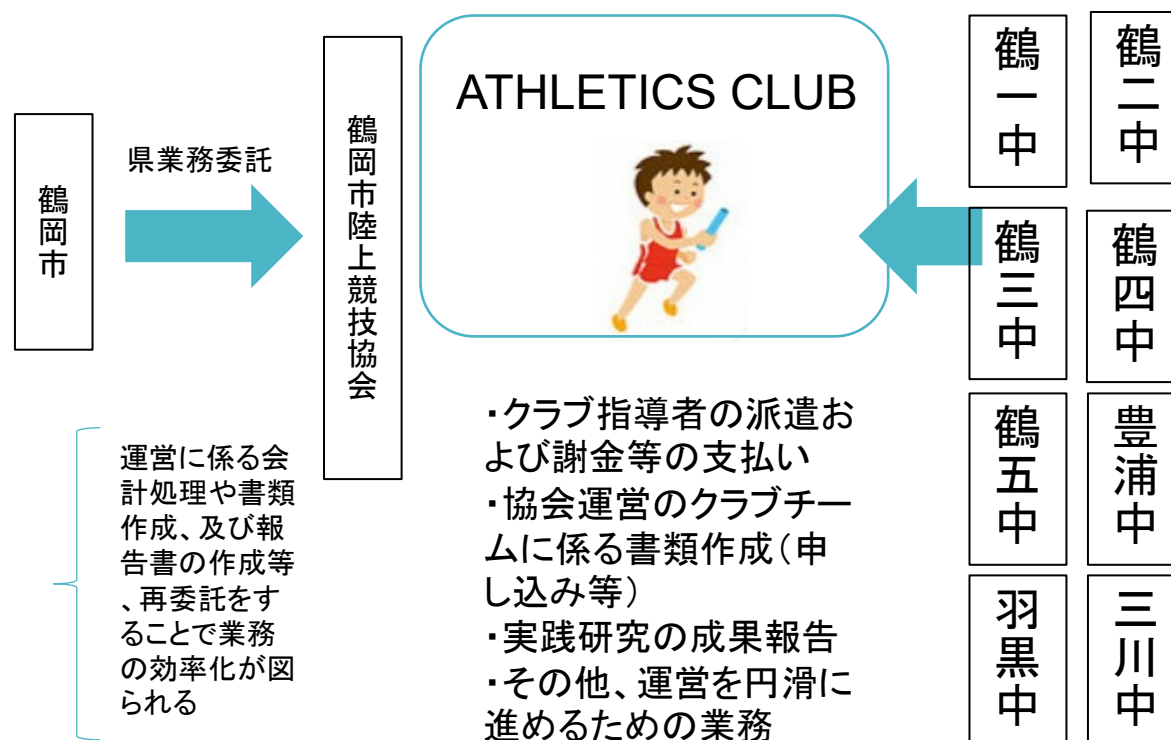
対象校数	8校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上競技
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

主な取組例

▼活動概要

対象校名	鶴一中、鶴二中、鶴三中、鶴四中、鶴五中 豊浦中、羽黒中、三川中
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営主体名	鶴岡市陸上競技協会
クラブ名	ATHLETICS CLUB
主な活動日時	水曜日 夏期:17:45-19:30 冬期:18:00-19:30 土曜日 夏期:10:00-13:00 冬期:8:30-11:30
指導者の主な属性	鶴岡市陸上競技協会会員 (JAAF公認コーチ、ジュニアコーチ)
活動場所	鶴岡市小真木原総合競技場
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(1ヵ月)	1,000円(※3ヵ月毎、3,000円を徴収)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり:800円/年 指導者1人あたり:1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○コーディネーター配置支援等体制整備

- ・関係者との連絡調整・指導助言等を行う総括コーディネーターの配置(人件費：賃金)
- ・地域移行の普及・促進のための連絡調整会議の開催

取組の成果

○保護者会スポーツクラブとして58団体(1,115人)が市に登録し活動

○アンケート調査 (R5.11) より

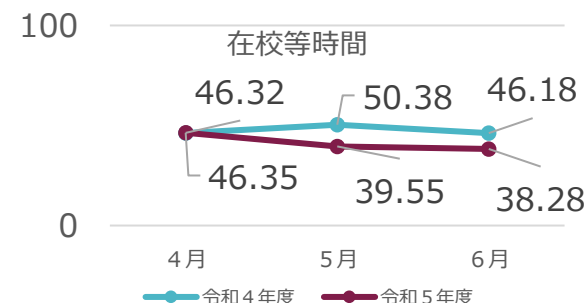
中学生…87%が「満足・やや満足」と回答 (選択の幅が拡大・他中生と交流)

保護者…69%が「満足・やや満足」と回答 (経費や移動に負担)

指導者…51%が「満足・やや満足」と回答 (指導者の負担や責任増加)

教職員…75%が「満足・やや満足」と回答 (業務負担軽減)

○在校等時間 (R4とR5の4月～6月比較) R4 47.62h → R5 41.39h



特に工夫した事項

【部活動地域移行の普及・促進のための連絡調整会】※先行事例等の紹介

- ・7月…新規でスポ少立上げ地域活動として尽力しているクラブの紹介
- ・12月…(運動部)鶴岡ATHLETICSClubの事業報告
(文化部)吹奏楽連盟及び鶴岡ジュニア合唱団から説明

【関係競技団体等の連絡調整会議】

- ・中体連加盟13の競技団体との情報交換会を実施
- ・それぞれの13の競技団体との個別の情報交換会を実施

令和6年1月24日(水)各競技団体向け全体説明会
(以下、希望競技団体への個別の説明会)

令和6年2月6日(火)ソフトボール
令和6年2月7日(水)体操・新体操、バレー
令和6年2月13日(火)バスケ
令和6年2月14日(水)ソフトテニス、柔道
令和6年2月20日(火)バドミントン
令和6年2月21日(水)剣道

今後の課題と対応方針

課題①土日休日の大会等の地域移行(大会運営スタッフの不足及び負担の増加・保護者、指導者に係る負担の増加等)

課題②保護者会クラブに代わる持続可能な体制整備(規約に基づく持続可能な運営及び適正な会計処理、指導者への報酬等)

今後の対応方針→各スポーツ・文化団体(連盟協会)の支援拡大=持続可能な体制整備の構築

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 部活動改革体制整備事業（委託事業）
 - ・クラブ指導者の派遣および謝金等の支払い
 - ・協会運営のクラブチームに係る書類作成（中体連地域クラブ活動登録申請関係等）
 - ・実践研究の成果報告、その他、運営を円滑に進めるための業務

取組の成果

- 指導者（鶴岡市陸上競技協会会員・県縦断駅伝・女子駅伝コーチ）
 - ・有資格者・・・JAAF公認コーチ1名（ナショナルチーム・都道府県コーチも可）
JAAF公認ジュニアコーチ3名 ※中学校・高校の外部指導者兼務
 - ・在籍クラブ生・・・約40名程度 ※羽黒・三川中は部活動が設置されていない。
- 成果：大会で上位入賞が多い、小学生コースからの一貫（専門とする）指導
多世代・他中生との交流

◎令和6年度県中体連地域クラブとして申請 → 承認



特に工夫した事項

- 練習環境
本市は、陸上競技場が1カ所のため、高校生と練習時間が重なり混雑する。→高校生との重なりを避け午後練習としている（練習スペースの確保・衝突事故等の防止）
- 指導者の確保及び持続可能な体制づくり
後継指導者、経費や人件費など持続可能な体制づくり（今後、スポンサー（企業連携）の獲得等を検討）

今後の課題と対応方針

課題①中体連地域クラブ登録に伴う、支援体制の確立（大会参加補助など）
課題②組織マネジメントする人材の育成
対応方針→企業やバックボーンとなる団体との連携を模索し、組織力の向上を図る。引き続き指導者・マネージャーの発掘・育成に努める。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○令和5年度鶴岡市中学校生徒クラブ活動費援助

（趣旨）少子化の中でも将来にわたり地域に住む子どもたちが、継続してスポーツや文化活動に親しむことができる機会を確保するために、経済的に困窮する世帯の子どもが地域スポーツ・文化活動に参加できなくなならないよう、地域移行に伴い新たに必要になる会費等を支援。

（対象）本市が準要保護者であると認定し、かつ本市にある中学校に在籍し、土日等休日にスポーツ・文化活動を行う生徒の保護者

取組の成果

○本市には224人の準要保護が登録承認されている。

うち、土日休日にスポーツ・文化活動を行う生徒の保護者130人（約58%）

に対し、年額3,800円を支給。**合計494,000円**

○年額の根拠

年会費3,000円+保険料800円で算出

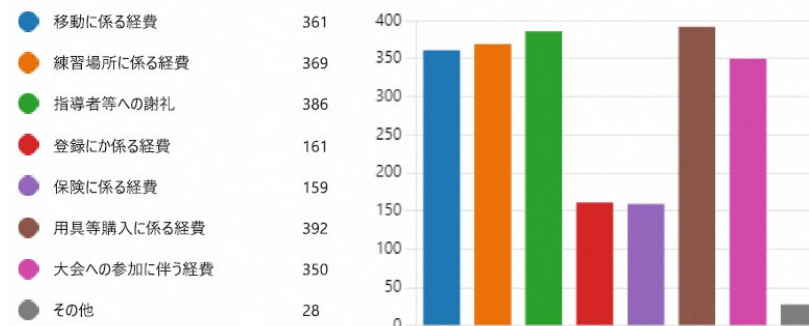
	人数	うち支給対象	備考
要保護	14人	0	手厚い支援あり
準要保護	224人	130人 (58%)	R6 238人 認定予定

特に工夫した事項

○鶴岡市児童生徒就学援助（平成17年告示）との関係

市が定める就学援助制度の一部改正（オンライン学習通信費追加：令和4.4月告示）を行った。さらに令和5.4月より、鶴岡市中学校生徒クラブ活動費援助を告示し、適正な給付に努めた。

本市では、給食や医療費の無償化も対応するなど、手厚い支援を実施している。



今後の課題と対応方針

アンケートの結果を見ると、「用具購入に係る経費」に対する支援が必要であると回答が多くあった。そこで、保護者の支援を受けることができず、自分のやりたい活動ができなくなならないような仕組みを検討していく必要がある。

これからの補助制度の必要性（令和5年11月保護者アンケート結果より）

約90%の保護者が、補助は『必要』と回答した。

その他として、「生活困窮者への支援」「スクールバスに対する補助」「大会や遠征に伴う宿泊等に対する補助」「ひとり親への支援」「部顧問に対する支援」などがある。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

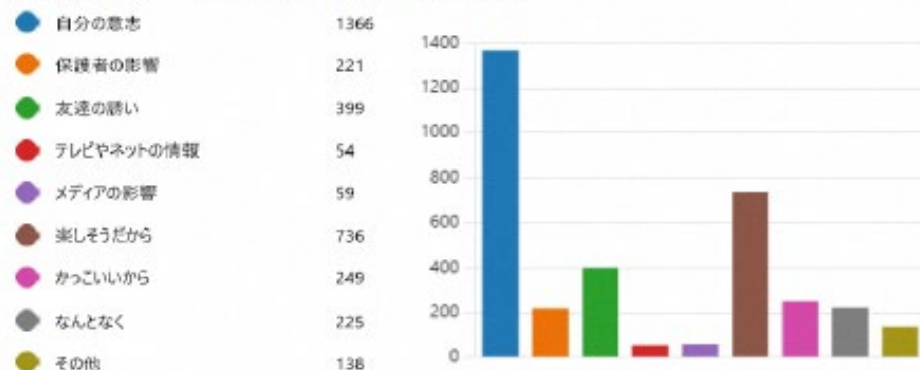
【概要版】鶴岡市部活動改革に関わるアンケート調査結果報告

中学生用

目的：今年度からの休日の部活動の段階的な地域移行に伴い、現状を把握し、市内における新たなスポーツ・文化環境の整備充実のために実施するもの。

1,946人回答

所属するスポーツ・文化活動を選んだきっかけ

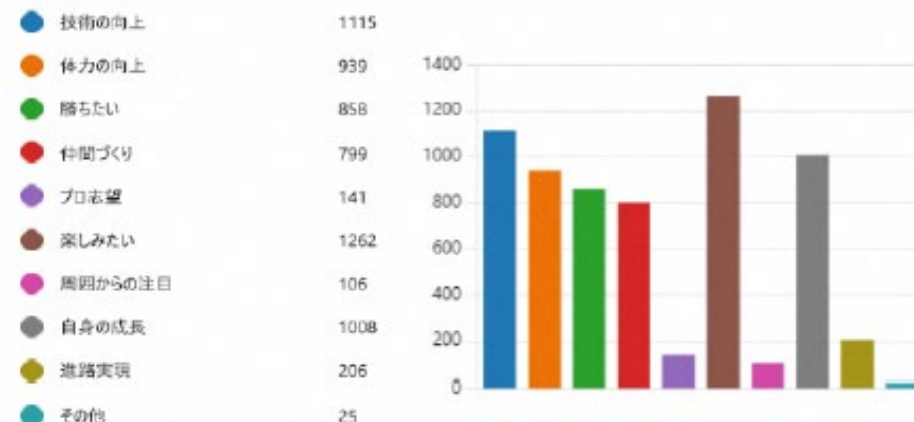


所属するスポーツ・文化活動を選んだきっかけとして約70%の中学生が『自分の意思』と回答した。続いて『楽しそうだから』が多かった。その他として「小学生の頃からやっていたから」「音楽が好きだから」「両立できるから」「兄弟の影響」「将来のため」などがある。

所属するスポーツ・文化活動の形態



スポーツ・文化活動に求めること



スポーツ・文化活動に求めることとして、約65%の中学生が『楽しみたい』と回答した。続いて『技術の向上』『自身の成長』が多かった。その他として「勝ちにこだわり過ぎない」「結果でお世話になった人に恩返ししたい」「ベストを尽くす」「他校生との関わり」などがある。

現在の土日休日のスポーツ・文化活動時間及び日数

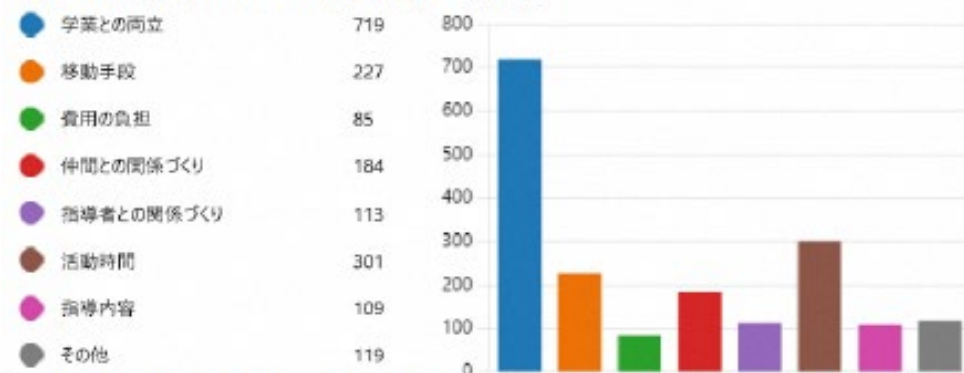


現在の土日休日のスポーツ・文化活動の時間及び日数は、約54%が『丁度良い』と回答し、約30%が『多い・やや多い』と回答した。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

現在の土日休日のスポーツ・文化活動での困り感



現在の土日休日のスポーツ・文化活動での困り感として、約37%の中学生が『学業との両立』と回答した。

その他として「習い事との両立が難しい」「コーチがいなくて練習ができない」「トレーニング内容が古い」「用具が古い」などがある。

現在の土日休日のスポーツ文化・活動の満足度



現在の土日休日のスポーツ・文化活動の満足度は、約87%が『満足・やや満足』と回答した。不満足の理由として、「活動時間を増やしてほしい」「活動場所の確保」「指導者の確保」等がある。

これからの土日休日のスポーツ文化・活動の必要性（㊸大会を除く）



これからの土日休日のスポーツ・文化活動の必要性は、約86%が『必要・やや必要』と回答した。

不必要の理由として「家族団楽」「自分の時間が必要」「その他の趣味のため」などがある。

これからのスポーツ・文化活動の在り方についての意見・要望等

- ・自分にあった活動が選択出来てよい。選択の幅をさらに広げてほしい。
- ・みんなが楽しみながら好きなことを出来る場所になってほしい。
- ・もっと鶴岡市にクラブなどの外部活動を増やしてほしい。
- ・勝ちにこだわらず楽しんでスポーツをしたい人が、スポーツをできる環境を作ってほしい。
- ・少子高齢化のなかでもスポーツや文化活動は皆との交流や自分自身の成長の場でもあるので、今までよりさらに活性化させてもらいたい。
- ・活動することで誰かしらの負担はできてしまうけど、その負担がそのうちの誰かに偏らずみんなて活動していけるようにしてほしい。

《考察》

- ・中学生は、以前に比べ選択の幅や他校との交流が広がり、自分のニーズにあった活動に打ち込めていることなど、約86%が「満足・やや満足」と回答した。
- ・スポーツ・文化活動に主体的に参加し、自分自身の成長を実感している半面、学業との両立に悩んでいる中学生が多くいる。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

土日休日の部活動地域移行

●現状及び進捗状況

今年度（令和5年度）より市内の11中学校において、上記、土日休日の活動形態で活動している状況。

土日休日の部活動(練習)の地域移行の進捗状況 = **100%**

●部活動地域移行における課題

課題①

土日休日の大会等の地域移行

- ・大会運営スタッフの不足及び負担の増加
- ・保護者、指導者に係る負担の増加
- ・会場施設及び審判員の確保 など

施設管理システム
(学校開放含む)
の導入等の検討

課題② ※別紙参照

保護者会クラブに代わる持続可能な体制整備

- ・規約に基づく持続可能な運営及び適正な会計処理
- ・指導者への報酬及び資格の取得、研修会への参加義務
- ・保険の加入、トラブル発生時等の対応 など

<保護者会クラブ>

現在58の団体
(1115人)が
登録し活動中

Keyword

10年20年先を見据えた **持続可能** な体制整備



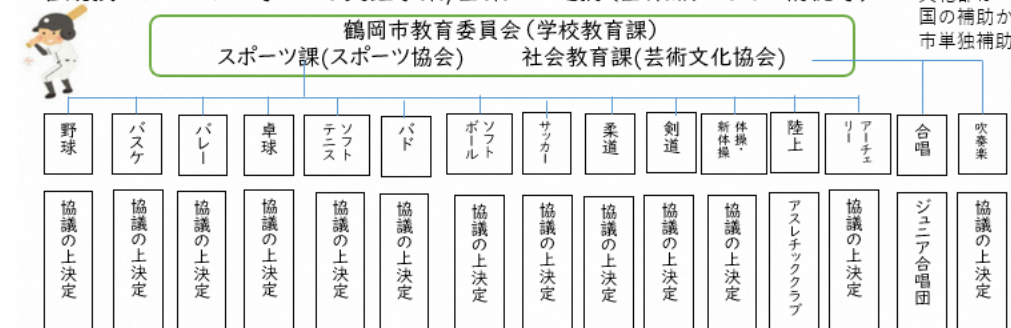
そのために...

令和6年度：実証期間

各スポーツ・文化団体（連盟協会）を支援＝持続可能な体制整備の構築

- ①大会運営補助：事務局員の人件費及び大会スタッフへの経費等を支援
- ②指導者育成補助：事務局員の人件費及び指導者に対する経費等を支援

○各競技モデルクラブ等による実証事業/企業との連携（企業版ふるさと納税等）



こどもたちの活躍の場の創出

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【ATHLETICSClub練習風景①】



【ATHLETICSClub練習風景②】



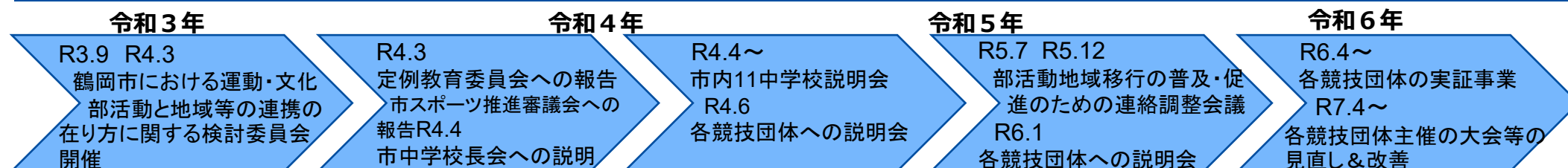
【ATHLETICSClub練習風景③】



【ATHLETICSClub練習風景④】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



● 参集範囲

市中学校長会長・田川中体連会長・田川
中文連会長・スポ推委員長・総合型地
域SC会長・クラブマネージャー・市スポーツ
協会会長・市芸文連会長・PTA連合会会
長・スポ少本部長・学識有識者など

● 大きな2つの提言

- ① 学校の教員の指導の下に行われる部活動は**月曜～金曜までの平日のみとし、休日は活動を行わないこと**
- ② 休日に活動を行う必要があるか、もし実施するのであればどのような体制で活動をしていくかについて、**各部活動単位で、それぞれの部の実態に合わせ、今年度中に検討していくこと**

● 具体的な移行方法

- パターン1…総合型地域SCでの活動
パターン2…スポーツ少年団での活動
パターン3…保護者会クラブでの活動
パターン4…民間クラブでの活動
パターン5…合同部活動での活動

R4.3.24鶴岡市スポーツ推進審議会
R4.4.13鶴岡市中学校長会

● 報告並びに説明した内容

- ① 運動・文化部活動の土日の地域移行に向けたアンケート調査結果について
- ② 段階的な土日の地域移行に向けた本市の具体的な方法について

パターン1…総合型地域SCへの移行
※令和4年度「ふじしまSC」をモデルとして実証事業を行う。

パターン2…スポ少への移行
パターン3…保護者会クラブへの移行
※市に申請し、承認を受けて活動。持続可能な観点から国が示す推進期間3年間の救済的な措置とする。

パターン4…民間クラブへの移行
パターン5…合同部活動への移行
③ 今後のスケジュール
令和4年度～各学校及び各競技団体への説明会を実施。
令和5年度～地域移行の実現

R5.7第1回連絡調整会議 情報提供

- ① 本市の部活動地域移行の現状について
- 講義
- スポ少新規立上げにかかる課題と成果について

R5.12第2回連絡調整会議 情報提供

- ① 鶴岡市部活動改革に関するアンケート調査の結果報告
- ② 令和6年度中体連・中文連大会への地域クラブ参加について
- ③ モデルクラブからの現状報告

R6.1各競技団体への説明会 説明

- ・ 鶴岡市部活動改革に関わるアンケート調査結果報告について
 - ・ 国の実証事業「鶴岡ATHLETIC CLUB」について
- 情報提供
・ 令和6年度中体連参加規程等について

● 令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業

- ① 『地域クラブとして各競技・文化団体が主催する大会・コンクール参加100%を目指す』
 - ② 『指導者育成としてJSPOや各競技団体及び文化芸術団体の公認資格の取得及び、年1回以上の研修会の支援を目指す』
- 運動部活動に対する意識を改革する。
(教員・保護者・生徒・指導者)
→ 指導者の育成
→ 当該顧問の時間外勤務における部活動指導時間 3割削減
→ 生徒の満足度 7割以上



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

鶴岡市 部活動改革スケジュール（案）

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	実証期間	実証期間	推進期間
学校教育課	総括Co配置 陸上競技協会 （ATHLETICSCLUB）への委託事業	1 3 競技団体への委託事業展開 ①大会運営補助：事務局員の人件費及び大会スタッフへの経費等を支援 ②指導者育成補助：事務局員の人件費及び指導者に対する経費等を支援	さらに事業を拡大、地域移行を推進
管理課	小中学校体育文化活動奨励事業 （大会補助）の見直し&改善	学校施設開放の条例等の見直し検討 スクールバスの利用についての検討	
スポーツ課		市の施設及び学校開放のシステム導入 検討	各団体及び大会参加補助等の検討
社会教育課		地域学校協働本部による文化部（吹奏楽部等）のモデル事業を展開	各団体及び大会・コンクール参加補助等の検討
首長部局	市の施策の見直し検討	公共交通網の整備充実 ふるさと納税等の活用検討	企業との連携について検討
土日休日の部活動（練習）の地域移行実現			
土日休日の部活動（大会）の地域移行実現			

R8

休日の部活動を100%地域移行